

2005年度

フランス語学科シラバス

獨協大学

学則別表(2003年度以降入学者用)

科目群	部門	科目	単位	I類			II類		
				必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択
学科基礎科目	フランス語	フランス語 I a	1	12			12		
		フランス語 I b	1	(10)*			(10)*		
		フランス語 II a	1						
		フランス語 II b	1	12			12		
科授共全 目業通学		英語		10 (12)*		4 ***	10 (12)*		4 ***
学科共通科目	フランス語	総合フランス語a	2	4			4		
		総合フランス語b	2						
		フランス語文章表現法a	2		4			4	
		フランス語文章表現法b	2						
		和文仏訳a	2						
		和文仏訳b	2						
		フランス語会話a	2						
		フランス語会話b	2						
		時事フランス語a	2						
		時事フランス語b	2						
		商業フランス語a	2						
		商業フランス語b	2						
学科専門科目	フランス語学・文学	フランス語学概論a	2		4				
		フランス語学概論b	2						
		フランス文学概論a	2						
		フランス文学概論b	2						
		フランス語史a	2						
		フランス語史b	2						
		フランス文学史a	2						
		フランス文学史b	2						
		フランス語学各論a	2		8				
		フランス語学各論b	2						
		フランス文学各論a	2						
		フランス文学各論b	2						
		フランス語学講読a	2						
		フランス語学講読b	2		16**	26		16**	22
		フランス文学講読a	2						
		フランス文学講読b	2						
	フランス文化・社会	フランス文化・社会概論a	2						
		フランス文化・社会概論b	2					4	
		フランス事情	2						
		フランスの地誌a	2						
		フランスの地誌b	2						
		フランスの歴史a	2						
		フランスの歴史b	2						
		フランスの思想a	2						
		フランスの思想b	2						
		フランスの美術a	2						8
		フランスの美術b	2						
		フランスの音楽a	2						
		フランスの音楽b	2						
		フランスの演劇a	2						
		フランスの演劇b	2						
		フランスの政治a	2						
フランスの政治b	2								
フランスの経済a	2						4		
フランスの経済b	2								
フランス文化・社会各論a	2								
フランス文化・社会各論b	2								
フランス文化・社会講読a	2								
フランス文化・社会講読b	2		16**			16**			
卒業論文			4						
外国語学部共通科目(別表I-5)									
IV (別表)	全学 共通 科目 (別表)	カテゴリー I		4			4		
		カテゴリー II			8			8	
		カテゴリー III			4	4		4	4
		カテゴリー IV			4	***		4	***
		カテゴリー V							
		英語以外の外国語科目							
		古典語科目							
		演習a	2	4			4		
		演習b	2	4			4		
卒業に必要な単位数合計				50	48	30	50	52	26
				128			128		

備考

- (1)* フランス語既修者に適用される。
- (2)** 「語学講読」、「文学講読」又は「文化・社会講読」の中から16単位選択必修。
- (3) 卒業に必要な選択科目のうち20単位までは、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代用できる。
ただし、他学部科目の単位は、8単位以内(教職課程授業科目の4単位を含む)とする。
なお、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。
- (4)***全学共通授業科目の英語も含めた科目から4単位選択。
○本表は、2003年度入学者から適用する。

学則別表(2001・2002年度入学者用)

科目群	部門	科目	単位	I類			II類			
				必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
学科基礎科目	フランス語	フランス語 I	2	12 (10)*			12 (10)*			
		フランス語 II	2	12			12			
	第二外国語	英語 I	2	4			4			
		英語 II	2	2			2			
学科共通科目	フランス語	総合フランス語	4	4			4			
		フランス語文章表現法	4		4			4		
		和文仏訳	4							
		フランス語会話	4							
		時事フランス語	4							
		商業フランス語	4							
	第二外国語	英語 III	2			4			4	
		英語 IV	2							
		英会話 I	2							
		英会話 II	2							
学科専門科目	フランス語学・文学	フランス語学概論	4		4					
		フランス文学概論	4							
		フランス語史	4							
		フランス文学史	4							
		フランス語学各論	4		8					
		フランス語学各論B**	2							
		フランス文学各論	4							
		フランス文学各論B**	2							
		フランス語学講読	4			***	26		***	
		フランス文学講読	4							
	フランス文化・社会	フランス文化・社会概論	4						4	
		フランス事情**	2							
		フランスの地誌	4							
		フランスの歴史	4							
		フランスの思想	4						8	
		フランスの美術	4							
		フランスの音楽	4							
		フランスの演劇	4							
		フランスの政治	4							
		フランスの経済	4							
		フランス文化・社会各論	4						4	
		フランス文化・社会各論B**	2							
フランス文化・社会講読	4			***			***			
外国語学部共通科目(別表 I-5)				28			28			
卒業論文				4						
演習				4	8		8			
卒業に必要な単位数合計					70	36	26	70	40	22
					132			132		

備考

(1)* フランス語既修者に適用される。

(2)** 半期で完結する科目である。

(3)*** 「語学講読」、「文学講読」又は「文化・社会講読」の中から16単位選択必修。

(4) 卒業に必要な選択科目のうち20単位までは他学部または他学科の科目の単位をもって代用できる。

ただし、他学部科目の単位は、8単位以内(教職課程授業科目の4単位を含む)とする。

なお、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。

○ 本表は、2001年入学者から適用する。

学則別表 (2003年度以降入学者)

科目群	科目	単位
外国語学部共通科目	総合講座	2
	情報科学概論a	2
	情報科学概論b	2
	情報科学各論	2
	経済原論a	2
	経済原論b	2
	社会心理学a	2
	社会心理学b	2

○ 本表は、2003年度入学者から適用する。

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

以下に、シラバスの各項目についての説明を載せます。
シラバスを良く読み、計画的な履修登録をしてください。

なお、目次は入学年度により「2003年度以降入学者用」と「2002年度以前入学者用」に別れています。各自の入学年度の目次をご利用ください。

①適用年度 適用年度	② 科目名 科目名	③ 担当者
④ ◆講義目的 講義概要		⑦ ◆授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週
【 春学期 】		
⑤ ◆評価方法		
⑥ ◆テキスト 参考文献		

*上段は、春学期科目です。

- ①② 入学年度により科目が異なります。
③ 担当教員氏名
④ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載してあります。
⑤ a 科目は春学期終了時に成績評価が出ます。
b 科目と通年科目は秋学期終了時に成績評価が出ます。
⑥ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載してあります。
⑦ 学期の授業計画についての欄です。各週ごとに講義するテーマが記載してあります。

※⑦は場合によっては授業計画ではなく扱う項目を列記している科目もあります

適用年度 適用年度	科目名 科目名	担当者
◆講義目的 講義概要		◆授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週
【 秋学期 】		
◆評価方法		
◆テキスト 参考文献		

*下段は、秋学期科目です。
各項目については、春学期と同一です。

【2002年度以前入学者用目次】⇒

目次の「注意コード」
2002年度以前入学者用目次の、行の先頭の「注意欄」は、科目の受講条件などをコードで示したものです。 コードの内容は右表を参照してください。

A	担当教員の許可を得る(授業時間割表の諸注意参照)
B	・重複履修可 ・同一年度内、同一教員不可 ・受講定員あり
C	重複履修可, 同一教員履修不可
D	・重複履修可 ・同一年度内、同一教員不可
E	重複履修可
F	・重複履修可 ・受講定員あり
G	・半期完結 ・合計4単位まで履修可 ・同一教員履修不可
H	抽選有、「授業時間割」参照

フランス語学科授業科目 (2003年度以降入学生用)

目次

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始 学期	履修 不可	ページ
------------	-----	-----	------	----	----	-----	----------	----------	-----

学科基礎科目

【フランス語部門】

		フランス語 I a,b(文法)				各 1	1, 2	全	1
		フランス語 I a,b(総合)				各 1	1, 2	全	2
		フランス語 I a,b(会話)				各 1	1, 2	全	3
		フランス語 I a,b(LL)				各 1	1, 2	全	4
		フランス語 II a,b(文法)				各 1	3, 4	全	5
		フランス語 II a,b(講読)				各 1	3, 4	全	6
		フランス語 II a,b(総合)				各 1	3, 4	全	7
		フランス語 II a,b(会話)				各 1	3, 4	全	8
		フランス語 II a,b(LL)				各 1	3, 4	全	9

学科共通科目

【フランス語部門】

		総合フランス語a,b	受講指定科目につき、空欄の項目は授業時間割表を参照する。	各 2	5, 6	全	10
09645	春	フランス語文章表現法a	C. ウァンドルディ オザノー	火2 6-304	2	5	11
09646	秋	フランス語文章表現法b	C. ウァンドルディ オザノー	火2 6-304	2	6	11
09639	春	フランス語文章表現法a	M. P. ミュノーズ	火3 2-310	2	5	12
09640	秋	フランス語文章表現法b	M. P. ミュノーズ	火3 2-310	2	6	12
09643	春	フランス語文章表現法a	M. ミズバヤシ	水1 6-304	2	5	13
09644	秋	フランス語文章表現法b	M. ミズバヤシ	水1 6-304	2	6	13
09641	春	フランス語文章表現法a	A. ドホス	木1 4-304	2	5	14
09642	秋	フランス語文章表現法b	A. ドホス	木1 4-304	2	6	14
09637	春	フランス語文章表現法a	B. レウルス	金2 5-314	2	5	15
09638	秋	フランス語文章表現法b	B. レウルス	金2 5-314	2	6	15
09735	春	和文仏訳a	江花 輝昭	火4 5-405	2	5	16
09736	秋	和文仏訳b	江花 輝昭	火4 5-405	2	6	16
09737	春	和文仏訳a	小石 悟	木2 1-208	2	5	17
09738	秋	和文仏訳b	小石 悟	木2 1-208	2	6	17
09614	春	フランス語会話a	M. ミズバヤシ	火2 6-207	2	5	18
09618	秋	フランス語会話b	M. ミズバヤシ	火2 6-207	2	6	18
09608	春	フランス語会話a	H. ドリエップ	火3 1-111	2	5	19
09609	秋	フランス語会話b	H. ドリエップ	火3 1-111	2	6	19
09621	春	フランス語会話a	C. ウァンドルディ オザノー	火4 6-206	2	5	20
09622	秋	フランス語会話b	C. ウァンドルディ オザノー	火4 6-206	2	6	20
09619	春	フランス語会話a	S. ジュンタ	金2 5-402	2	5	21
09620	秋	フランス語会話b	S. ジュンタ	金2 5-402	2	6	21
09610	春	フランス語会話a	B. レウルス	金3 5-314	2	5	22
09611	秋	フランス語会話b	B. レウルス	金3 5-314	2	6	22
09612	春	フランス語会話a	R. サクマ	土1 6-304	2	5	23
09613	秋	フランス語会話b	R. サクマ	土1 6-304	2	6	23

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始 学期	履修 不可	ページ
09717	春	時事フランス語a	中村 公子	月3	5-404	2	5		24
09718	秋	時事フランス語b	中村 公子	月3	5-404	2	6		24
09719	春	時事フランス語a	横地 卓哉	水1	5-208	2	5		25
09720	秋	時事フランス語b	横地 卓哉	水1	5-208	2	6		25
09721	春	商業フランス語a	C. パジエス	月1	6-302	2	5		26
09722	秋	商業フランス語b	C. パジエス	月1	6-302	2	6		26
09723	春	商業フランス語a	大井 正博	金2	3-207	2	5		27
09724	秋	商業フランス語b	大井 正博	金2	3-207	2	6		27

学科専門科目

【フランス語学・文学部門】

09623	春	フランス語学概論a	田中 善英	月3	1-209	2	5		28
09624	秋	フランス語学概論b	田中 善英	月3	1-209	2	6		28
01635	春	フランス文学概論a	伊藤 幸次	火1	6-201	2	1		29
01636	秋	フランス文学概論b	伊藤 幸次	火1	6-201	2	2		29
09635	春	フランス語史a	田中 善英	金3	4-304	2	5		30
09636	秋	フランス語史b	田中 善英	金3	4-304	2	6		30
09681	春	フランス文学史a	筒井 伸保	木2	6-205	2	3		31
09682	秋	フランス文学史b	井村 順一	木2	6-205	2	4		31
09627	春	フランス語学各論a	古川 直世	火4	1-302	2	5		32
09628	秋	フランス語学各論b	古川 直世	火4	1-302	2	6		32
09625	春	フランス語学各論a	小石 悟	水1	1-208	2	5		33
09626	秋	フランス語学各論b	小石 悟	水1	1-208	2	6		33
09667	春	フランス文学各論a	筒井 伸保	木3	3-208	2	5		34
09668	秋	フランス文学各論b	筒井 伸保	木3	3-208	2	6		34
09665	春	フランス文学各論a	保莉 瑞穂	金2	3-302	2	5		35
09666	秋	フランス文学各論b	保莉 瑞穂	金2	3-302	2	6		35
09631	春	フランス語学講読a	田中 善英	月2	3-118	2	5		36
09632	秋	フランス語学講読b	田中 善英	月2	3-118	2	6		36
09633	春	フランス語学講読a	小石 悟	水2	6-304	2	5		37
09634	秋	フランス語学講読b	小石 悟	水2	6-304	2	6		37
09629	春	フランス語学講読a	井村 順一	木3	3-205	2	5		38
09630	秋	フランス語学講読b	井村 順一	木3	3-205	2	6		38
09669	春	フランス文学講読a	横地 卓哉	月3	3-305	2	5		39
09670	秋	フランス文学講読b	横地 卓哉	月3	3-305	2	6		39
09671	春	フランス文学講読a	根本 祐徳	火2	6-206	2	5		40
09672	秋	フランス文学講読b	根本 祐徳	火2	6-206	2	6		40
09679	春	フランス文学講読a	保莉 瑞穂	火3	3-303	2	5		41
09680	秋	フランス文学講読b	保莉 瑞穂	火3	3-303	2	6		41
09677	春	フランス文学講読a	伊藤 幸次	水2	2-204	2	5		42
09678	秋	フランス文学講読b	伊藤 幸次	水2	2-204	2	6		42
09673	春	フランス文学講読a	M. ミズバヤシ	木1	5-409	2	5		43
09674	秋	フランス文学講読b	M. ミズバヤシ	木1	5-409	2	6		43
09675	春	フランス文学講読a	田中 成和	金2	3-205	2	5		44
09676	秋	フランス文学講読b	田中 成和	金2	3-205	2	6		44

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始 学期	履修 不可	ページ
------------	-----	-----	------	----	----	-----	----------	----------	-----

【フランス文化・社会部門】

01723	春	フランス文化・社会概論a	筒井 伸保	水3	2-404	2	1		45
01724	秋	フランス文化・社会概論b	筒井 伸保	水3	2-404	2	2		45
01719	春	フランス事情	中村 公子	木2	3-310	2	3		46
01705	秋	フランス事情	前川 久美子	木2	6-101	2	4		46
09606	春	フランスの地誌a	鈴木 隆	月3	3-206	2	3		47
09607	秋	フランスの地誌b	鈴木 隆	月3	3-206	2	4		47
07566	春	フランスの歴史a	藤田 朋久	木3	1-403	2	3		48
07567	秋	フランスの歴史b	藤田 朋久	木3	1-403	2	4		48
07570	春	フランスの思想a	若森 栄樹	金2	2-306	2	3		49
07571	秋	フランスの思想b	若森 栄樹	金2	2-306	2	4		49
07560	春	フランスの音楽a	松橋 麻利	木4	3-403	2	3		50
07561	秋	フランスの音楽b	松橋 麻利	木4	3-403	2	4		50
07568	春	フランスの演劇a	江花 輝昭	木4	3-208	2	3		51
07569	秋	フランスの演劇b	江花 輝昭	木4	3-208	2	4		51
09600	春	フランスの政治a	井上 スズ	月1	1-206	2	3		52
09605	秋	フランスの政治b	井上 スズ	月1	1-206	2	4		52
09647	春	フランス文化・社会各論a	井上 たか子	木1	4-301	2	5		53
09648	秋	フランス文化・社会各論b	前川 久美子	木1	4-301	2	6		53
09649	春	フランス文化・社会各論a	大井 正博	金3	3-403	2	5		54
09650	秋	フランス文化・社会各論b	大井 正博	金3	3-403	2	6		54
09659	春	フランス文化・社会講読a	井上 スズ	月2	1-304	2	5		55
09660	秋	フランス文化・社会講読b	井上 スズ	月2	1-304	2	6		55
09651	春	フランス文化・社会講読a	田桐 正彦	火1	1-302	2	5		56
09652	秋	フランス文化・社会講読b	田桐 正彦	火1	1-302	2	6		56
09661	春	フランス文化・社会講読a	藤田 朋久	火1	2-310	2	5		57
09662	秋	フランス文化・社会講読b	藤田 朋久	火1	2-310	2	6		57
09657	春	フランス文化・社会講読a	鈴木 隆	水1	2-202	2	5		58
09658	秋	フランス文化・社会講読b	鈴木 隆	水1	2-202	2	6		58
09653	春	フランス文化・社会講読a	井上 たか子	木2	1-302	2	5		59
09654	秋	フランス文化・社会講読b	井上 たか子	木2	1-302	2	6		59
09663	春	フランス文化・社会講読a	井上 美穂	木4	5-316	2	5		60
09664	秋	フランス文化・社会講読b	井上 美穂	木4	5-316	2	6		60
09655	春	フランス文化・社会講読a	若森 栄樹	木4	2-203	2	5		61
09656	秋	フランス文化・社会講読b	若森 栄樹	木4	2-203	2	6		61

フランス語学科授業科目（2002年度以前入学生用）

目次

注意	時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
----	------------	-----	-----	------	----	----	-----	----------	----------	-----

学科基礎科目

【フランス語部門】

	フランス語Ⅰ(文法)						2	1	全	1
	フランス語Ⅰ(総合)						2	1	全	2
	フランス語Ⅰ(会話)						2	1	全	3
	フランス語Ⅰ(LL)						2	1	全	4
	フランス語Ⅱ(文法)			空欄の項目は授業時間割表を参照する。			2	2	全	5
	フランス語Ⅱ(講読)				2	2	全	6		
	フランス語Ⅱ(総合)				2	2	全	7		
	フランス語Ⅱ(会話)				2	2	全	8		
	フランス語Ⅱ(LL)				2	2	全	9		

学科共通科目

【フランス語部門】

A	総合フランス語	各担当教員		4	3	全	10
01587	総合フランス語	C. バジェス	月2 5-402				
01790		F. -A. メール	月2 6-301				
01632		L. フォンテーヌ	月2 5-409				
01638		S. ジュンタ	金1 5-402				
01639		F. ルーセル	金1 2-204				
B 01812	フランス語文章表現法	C. ヴァンドルディ オザノー	火2 6-304	4	3		11
B 01652	フランス語文章表現法	M. P. ミュノーズ	火3 2-310	4	3		12
B 01701	フランス語文章表現法	M. ミズバヤシ	水1 6-304	4	3		13
B 01681	フランス語文章表現法	A. ドホス	木1 4-304	4	3		14
B 01588	フランス語文章表現法	B. レウルス	金2 5-314	4	3		15
D 01650	和文仏訳	江花 輝昭	火4 5-405	4	3		16
D 01777	和文仏訳	小石 悟	木2 1-208	4	3		17
B 01789	フランス語会話	M. ミズバヤシ	火2 6-207	4	3		18
B 01597	フランス語会話	H. ドリエップ	火3 1-111	4	3		19
B 01821	フランス語会話	C. ヴァンドルディ オザノー	火4 6-206	4	3		20
B 01811	フランス語会話	S. ジュンタ	金2 5-402	4	3		21
B 01673	フランス語会話	B. レウルス	金3 5-314	4	3		22
B 01736	フランス語会話	R. サクマ	土1 6-304	4	3		23
D 01645	時事フランス語	中村 公子	月3 5-404	4	3		24
D 01735	時事フランス語	横地 卓哉	水1 5-208	4	3		25
D 01623	商業フランス語	C. バジェス	月1 6-302	4	3		26
D 01814	商業フランス語	大井 正博	金2 3-207	4	3		27

【第二外国語部門】

H 09832	英語Ⅲ(基礎会話)	J. スティベンソン	月1 6-206	2	3		62
H 09849	英語Ⅲ(基礎作文)	飯島 優雅	月1 6-308	2	3		63
H 09488	英語Ⅲ(基礎読解)	岡田 圭子	月1 3-116	2	3		64
H 09482	英語Ⅲ(上級会話)	C. カーペンター	水3 6-307	2	3		65
H 09485	英語Ⅲ(上級読解)	佐藤 保	水3 1-308	2	3		66
H 09486	英語Ⅲ(上級作文)	保坂 華子	水3 5-409	2	3		67

注意	時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
H	09483		英語Ⅲ(上級読解)	C. カーペンター	水4	6-305	2	3		68
H	09484		英語Ⅲ(上級会話)	G. G. コッホ	水4	6-404	2	3		69
H	09487		英語Ⅲ(基礎会話)	R. M. ペイン	金1	1-111	2	3		70
H	09489		英語Ⅲ(基礎読解)	赤嶺 玲子	金1	4-308	2	3		71
H	09490		英語Ⅲ(基礎作文)	柚木 一彦	金1	3-209	2	3		72
H	08721	春	英語Ⅲ(CAEL)	安井 美代子	水2	5-201	2	3		73
H	08722	秋	英語Ⅲ(CAEL)	安井 美代子	水2	5-201	2	3		73

学科専門科目

【フランス語学・文学部門】

	01671		フランス語学概論	田中 善英	月3	1-209	4	3		28
	01634		フランス文学概論	伊藤 幸次	火1	6-201	4	1		29
	01628		フランス語史	田中 善英	金3	4-304	4	3		30
	01782		フランス文学史	(春)筒井 伸保 (秋)井村 順一	木2	6-205	4	3		31
E	09031		フランス語学各論	古川 直世	火4	1-302	4	3		32
E	01759		フランス語学各論	小石 悟	水1	1-208	4	3		33
E	09032		フランス文学各論	筒井 伸保	木3	3-208	4	3		34
E	01713		フランス文学各論	保莉 瑞穂	金2	3-302	4	3		35
F	01690		フランス語学講読	田中 善英	月2	3-118	4	3		36
F	01702		フランス語学講読	小石 悟	水2	6-304	4	3		37
F	01641		フランス語学講読	井村 順一	木3	3-205	4	3		38
F	01605		フランス文学講読	横地 卓哉	月3	3-305	4	3		39
F	01637		フランス文学講読	根本 祐徳	火2	6-206	4	3		40
F	09033		フランス文学講読	保莉 瑞穂	火3	3-303	4	3		41
F	01806		フランス文学講読	伊藤 幸次	水2	2-204	4	3		42
F	01752		フランス文学講読	M. ミズバヤシ	木1	5-409	4	3		43
F	01786		フランス文学講読	田中 成和	金2	3-205	4	3		44

【フランス文化・社会部門】

	01722		フランス文化・社会概論	筒井 伸保	水3	2-404	4	1		45
G	01719	春	フランス事情	中村 公子	木2	3-310	2	2		46
G	01705	秋	フランス事情	前川 久美子	木2	6-101	2	2		46
	01663		フランスの地誌	鈴木 隆	月3	3-206	4	3		47
	01691		フランスの歴史	藤田 朋久	木3	1-403	4	2		48
C	01787		フランスの思想	若森 栄樹	金2	2-306	4	2		49
E	01772		フランスの音楽	松橋 麻利	木4	3-403	4	2		50
E	01764		フランスの演劇	江花 輝昭	木4	3-208	4	2		51
	01689		フランスの政治	井上 スズ	月1	1-206	4	3		52
E	01744		フランス文化・社会各論	(春)井上 たか子 (秋)前川 久美子	木1	春4-301 秋3-110	4	3		53
E	09034		フランス文化・社会各論	大井 正博	金3	3-403	4	3		54
F	01695		フランス文化・社会講読	井上 スズ	月2	1-304	4	3		55
F	01601		フランス文化・社会講読	田桐 正彦	火1	1-302	4	3		56
F	01734		フランス文化・社会講読	藤田 朋久	火1	2-310	4	3		57
F	01685		フランス文化・社会講読	鈴木 隆	水1	2-202	4	3		58
F	01621		フランス文化・社会講読	井上 たか子	木2	1-302	4	3		59
F	01761		フランス文化・社会講読	井上 美穂	木4	5-316	4	3		60
F	01630		フランス文化・社会講読	若森 栄樹	木4	2-203	4	3		61

03年度以降（春） 02年度以前（通年）	フランス語 I a（文法） フランス語 I（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は週2回で、一年間のうちにフランス語文法の概略を学ぶことを目的としています。</p> <p>どのような教科書を使うのか、どう授業を進めるのかといったことは担当の先生より説明があるので、最初の授業には必ず出席してください。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

03年度以降（秋） 02年度以前（通年）	フランス語 I b（文法） フランス語 I（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。			
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

03年度以降（春） 02年度以前（通年）	フランス語 I a（総合） フランス語 I（総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業はフランス語の実力を総合的に養うための授業で、週2回あり、LL、会話と同じ教科書を用います。未修クラスの教科書は Champion I です。既習では Panorama I です。</p> <p>この授業では特に文法、語彙の修得に中心を置きます。各課の最初にある dialogue を解説し、関連した文法事項を学び、練習問題を解くことで知識を確実に身につけ、そしてフランス語を書く能力を少しずつつけてゆきます。</p>		<p>Champion I では unité 0 から unité 5 まで、Panorama I では leçon 4 から leçon 9 まで進みます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Champion I Panorama I		担当の先生より指示されます。	

03年度以降（秋） 02年度以前（通年）	フランス語 I b（総合） フランス語 I（総合）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		<p>Champion I では unité 6 から unité 10 まで、Panorama I では leçon 10 から leçon 15 まで進みます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス語 I a (会話) フランス語 I (会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。先生はフランス人もしくはフランス語のネイティブスピーカーで、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。</p> <p>LL、会話と連動して同じ教科書を用います。未修クラスの教科書は Champion I です。既習では Panorama I です。</p>		<p>進度はフランス語 I (総合) と同じです。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Champion I Panorama I		担当の先生より指示されます。	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス語 I b (会話) フランス語 I (会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		<p>進度はフランス語 I (総合) と同じです。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス語 I a (LL) フランス語 I (LL)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業ではLL教室を用いて、特に発音、綴り字、聞き取りに力を入れます。教科書は総合フランス語や会話と同じです。</p> <p>授業の進め方については担当の先生の説明がありますが、進度は総合フランス語、会話と同じです。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
Champion I Panorama I		担当の先生より指示されます。	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス語 I b (LL) フランス語 I (LL)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。			
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

03年度以降（春） 02年度以前（通年）	フランス語Ⅱa（文法） フランス語Ⅱ（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は初級文法を終えた学生に、文法上の難しい事柄について踏み込んだ説明をし、より洗練された知識を身につけてもらうことを目的としています。いわゆる中級文法です。</p> <p>どのような教科書を使うのか、どう授業を進めるのかといったことは担当の先生より説明があるので、最初の授業には必ず出席してください。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

03年度以降（秋） 02年度以前（通年）	フランス語Ⅱb（文法） フランス語Ⅱ（文法）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。			
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

03年度以降（春） 02年度以前（通年）	フランス語Ⅱa（講読） フランス語Ⅱ（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業はフランス語で書かれたテキストを読む力を養うことを目的としています。</p> <p>どのような教科書を使うのか、どう授業を進めるのかといったことは担当の先生より説明があるので、最初の授業には必ず出席してください。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

03年度以降（秋） 02年度以前（通年）	フランス語Ⅱb（講読） フランス語Ⅱ（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。			
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス語Ⅱa(総合) フランス語Ⅱ(総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業はフランス語の実力を総合的にのばすための授業で、週2回あり、LL、会話と同じ教科書を用います。未習クラスの教科書はChampion I、IIです。既習ではPanorama IIです。</p> <p>この授業では特に文法、語彙をマスターすること、そしてフランス語を書く能力をつけることに中心を置きます。</p>		<p>Champion Iでは unité 11 から unité 15 まで、Panorama IIでは unité 2 の半ばまで進みます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Champion I Panorama I		担当の先生より指示されます。	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス語Ⅱb(総合) フランス語Ⅱ(総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		<p>Champion I の unité 16 から Champion II の unité 4 まで、Panorama II では leçon 9 まで進みます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス語Ⅱa(会話) フランス語Ⅱ(会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業はフランス語の運用能力をのばすことを目的としています。先生はフランス人もしくはフランス語のネイティブスピーカーで、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。</p> <p>LL、会話と同じ教科書を用います。未修クラスの教科書はChampion I、Ⅱです。既習ではPanorama Ⅱです。</p>		<p>進度はフランス語Ⅱ(総合)と同じです。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Champion I、Ⅱ Panorama Ⅱ		担当の先生より指示されます。	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス語Ⅱb(会話) フランス語Ⅱ(会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		<p>進度はフランス語Ⅱ(総合)と同じです。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス語Ⅱa(LL) フランス語Ⅱ(LL)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業ではLL教室を用いて、特に発音、聞き取り、 compréhension globaleなどに力を入れます。教科書は フランス語総合や会話と同じです。</p> <p>授業の進め方については担当の先生の説明がありますが、 進度はフランス語(総合)、会話と同じです。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
Champion I,II Panorama II		担当の先生より指示されます。	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス語Ⅱb(LL) フランス語Ⅱ(LL)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。			
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

03年度以降 (春) 02年度以前 (通年)	総合フランス語 a 総合フランス語	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Le but de ce cours est d'approfondir la connaissance de la langue française aussi bien sur le plan grammatical que lexical.</p> <p>Il prend la suite des cours de Sogo des premières années mais il n'a lieu qu'une fois par semaine avec un enseignat francophone. Vous devez donc treavailler personnellement à la maison et préparer à l'avance. Les cassettes des leçons seront distribuées au début de l'année.</p> <p>Le groupe 3-1 utilise <i>Panoprama II</i> de la leçon 7 ; les groupes 2,3,4 et 5 : <i>Champion II</i> à partir de l'unité 5.</p> <p>On insistera surtout sur la compréhension à l'écrit et à l'oral et sur l'expression écrite.</p> <p><u>Attention au numéro de votre groupe</u> : il est différent de celui de l'année dernière.</p>		1 <i>Champion</i> unité 5	<i>Panorama</i> leçon 10
		2	
		3	
		4 <i>Champion</i> unité 6	
		5	<i>Panorama</i> leçon 11
		6	
		7 <i>Champion</i> unité 7	
		8	
		9	<i>Panorama</i> leçon 12
		10 <i>Champion</i> unité 8	
		11	
		12	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Champion II</i> + cahier d'exercices et cassette audio. <i>Panorama II</i> + cahier d'exercices et cassette audio.		La méthode d'évaluation des connaissances sera expliquée par chaque enseignant.	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (通年)	総合フランス語 b 総合フランス語	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Le but de ce cours est d'approfondir la connaissance de la langue française aussi bien sur le plan grammatical que lexical.</p> <p>Il prend la suite des cours de Sogo des premières années mais il n'a lieu qu'une fois par semaine avec un enseignat francophone. Vous devez donc treavailler personnellement à la maison et préparer à l'avance. Les cassettes des leçons seront distribuées au début de l'année.</p> <p>Le groupe 3-1 utilise <i>Panoprama II</i> de la leçon 7 ; les groupes 2,3,4 et 5 : <i>Champion II</i> à partir de l'unité 5.</p> <p>On insistera surtout sur la compréhension à l'écrit et à l'oral et sur l'expression écrite.</p> <p><u>Attention au numéro de votre groupe</u> : il est différent de celui de l'année dernière.</p>		1 <i>Champion</i> unité 9	<i>Panorama</i> leçon 13
		2	
		3	
		4 <i>Champion</i> unité 10	
		5	<i>Panorama</i> leçon 14
		6	
		7 <i>Champion</i> unité 11	
		8	
		9	<i>Panorama</i> leçon 15
		10 <i>Champion</i> unité 12	
		11	
		12	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Champion II</i> + cahier d'exercices et cassette audio. <i>Panorama II</i> + cahier d'exercices et cassette audio.		La méthode d'évaluation des connaissances sera expliquée par chaque enseignant.	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス語文章表現 a フランス語文章表現	担当者	C. ヴァンドルディ
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours a pour objectif l'acquisition des techniques nécessaires à tous les modes d'expression écrite. A l'aide de la liste de vocabulaire qui vous sera à chaque fois fournie, vous réviserez d'abord, presque sans vous en rendre compte, les structures grammaticales déjà ou nouvellement acquises et les utiliserez ensuite dans des contextes variés : rédaction de lettres, description d'une personne ou d'un lieu, narration d'une succession d'évènements, argumentation sur un thème donné dans le cadre de la dissertation.			
テキスト、参考文献		評価方法	
Pas de livre Documents fournis par le professeur chaque semaine		L'étudiant est évalué sur le travail fait en classe chaque semaine (50%) et par une épreuve à la fin de l'année universitaire (50%) :	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス語文章表現 b フランス語文章表現	担当者	C. ヴァンドルディ
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours a pour objectif l'acquisition des techniques nécessaires à tous les modes d'expression écrite. A l'aide de la liste de vocabulaire qui vous sera à chaque fois fournie, vous réviserez d'abord, presque sans vous en rendre compte, les structures grammaticales déjà ou nouvellement acquises et les utiliserez ensuite dans des contextes variés : rédaction de lettres, description d'une personne ou d'un lieu, narration d'une succession d'évènements, argumentation sur un thème donné dans le cadre de la dissertation.			
テキスト、参考文献		評価方法	
Pas de livre Documents fournis par le professeur chaque semaine		L'étudiant est évalué sur le travail fait en classe chaque semaine (50%) et par une épreuve à la fin de l'année universitaire (50%) :	

03年度以降（春） 02年度以前（通年）	フランス語文章表現法 a フランス語文章表現法	担当者	M. P. ミュノーズ
講義目的、講義概要		授業計画	
最初の授業で指示する。		最初の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で指示する。		最初の授業で指示する。	

03年度以降（秋） 02年度以前（通年）	フランス語文章表現法 b フランス語文章表現法	担当者	M. P. ミュノーズ
講義目的、講義概要		授業計画	
最初の授業で指示する。		最初の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で指示する。		最初の授業で指示する。	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス語文章表現法 a フランス語文章表現法	担当者	M.ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectif : Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers.</p>		<p>Contenu : Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Ainsi nous partirons de la rédaction de phrases courtes tournant autour d'un point grammatical précis pour arriver à la production de petits textes traitant de sujets variés. Pour commencer notre séance d'écriture hebdomadaire nous prendrons l'habitude d'écrire ce qui nous passe par la tête en 2 ou 3 phrases et en toute spontanéité.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Apporter un dictionnaire FRANÇAIS		Contrôle continu. Un test à la fin des premier et deuxième semestres. Participation régulière aux cours souhaitée.	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス語文章表現法 b フランス語文章表現法	担当者	M.ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectif : Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers.</p>		<p>Contenu : Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Ainsi nous partirons de la rédaction de phrases courtes tournant autour d'un point grammatical précis pour arriver à la production de petits textes traitant de sujets variés. Pour commencer notre séance d'écriture hebdomadaire nous prendrons l'habitude d'écrire ce qui nous passe par la tête en 2 ou 3 phrases et en toute spontanéité.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Apporter un dictionnaire FRANÇAIS		Contrôle continu. Un test à la fin des premier et deuxième semestres. Participation régulière aux cours souhaitée.	

03年度以降 (春) 02年度以前 (通年)	フランス語文章表現法a フランス語文章表現法	担当者	A. ドフォス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ce cours vise à permettre aux étudiants d'écrire en français de courts textes sur des sujets simples tout en révisant de façon pratique certains points grammaticaux et syntaxiques. Les étudiants développeront leur aptitude à rédiger un texte suivant la logique propre à l'écriture en français. Si une attention aigüe sera portée sur divers points difficiles de la rédaction en français (par exemple le bon usage des articles ou de la syntaxe), le but essentiel du cours est que les étudiants prennent plaisir à rédiger en français.</p>		<p>Les textes seront basés sur divers sujets en rapport avec la vie quotidienne des étudiants. Ces sujets seront déterminés ultérieurement en fonction du niveau général de la classe. Les textes seront relus par le professeur qui soulignera les points à corriger. Il est important que les étudiants réfléchissent par eux-mêmes sur leurs erreurs afin de progresser, aussi est-il souhaitable qu'ils rendent une deuxième - voire une troisième - version de leur texte. Dans ce but, les devoirs alterneront avec les corrections.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		Evaluation continue. Pas d'examen mais une rédaction plus importante sera à rendre en fin de semestre.	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (通年)	フランス語文章表現法b フランス語文章表現法	担当者	A. ドフォス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ce cours vise à permettre aux étudiants d'écrire en français de courts textes sur des sujets simples tout en révisant de façon pratique certains points grammaticaux et syntaxiques. Les étudiants développeront leur aptitude à rédiger un texte suivant la logique propre à l'écriture en français. Si une attention aigüe sera portée sur divers points difficiles de la rédaction en français (par exemple le bon usage des articles ou de la syntaxe), le but essentiel du cours est que les étudiants prennent plaisir à rédiger en français.</p>		<p>Les textes seront basés sur divers sujets en rapport avec la vie quotidienne des étudiants. Ces sujets seront déterminés ultérieurement en fonction du niveau général de la classe. Les textes seront relus par le professeur qui soulignera les points à corriger. Il est important que les étudiants réfléchissent par eux-mêmes sur leurs erreurs afin de progresser, aussi est-il souhaitable qu'ils rendent une deuxième - voire une troisième - version de leur texte. Dans ce but, les devoirs alterneront avec les corrections.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		Evaluation continue. Pas d'examen mais une rédaction plus importante sera à rendre en fin de semestre.	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス語文章表現法 a フランス語文章表現法	担当者	B. レウルス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業は、フランス語の広告、ポスター、チラシ、テレビのC・M、website、雑誌の記事などを材料に進めていく。この授業では documents authentiques を使って、読解力・書く力・コミュニケーション能力を伸ばしていく。</p> <p>Dans ce cours nous etudierons une serie de documents authentiques (presse, medias, publicites, articles de magazines, sites internet, etc.). La comprehension est progressive?: observation generale du document, exercices de comprehension, activites d' expression et enfin entrainement grammatical.</p>		<p>次の項目を春学期で扱う。</p> <p>1・恋愛の表現 : expression des emotions</p> <p>2・地下鉄でパリ発見! : rencontre en R.E.R.</p> <p>3・有名で、誰でも使っている : BIC, 仏企業</p> <p>4・カマンベルから見たフランスグルメ : le camembert</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>《Je lis, tu lis...》 『資料で読み解くフランス語』 第三書房 ISBN 4-8086.2105-3</p>		授業へ積極的な参加・試験は学期末に行います。	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス語文章表現法 b フランス語文章表現法	担当者	B. レウルス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Au second semestre, nous continuerons la methode en abordant de nouveaux themes.</p>		<p>次の項目を秋学期で扱う。</p> <p>1・フランス映画の復活 : le Festival de Cannes</p> <p>2・ショコラ製造業者 : Gerard MULOT, chocolatier a Paris</p> <p>3・ヨーロッパの中のフランス : l' euro, notre monnaie</p> <p>4・インターネット & cyber book?: lire en ligne</p> <p>5・Agnes b. : 《Si j' etais...》</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>《Je lis, tu lis...》 ISBN 4-8086.2105-3</p>		授業へ積極的な参加・試験は学期末に行ないます。	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	和文仏訳 a 和文仏訳	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>仏検準1級の筆記試験には、毎年かなり長文の和文仏訳問題が出題されます。この授業は、仏検準1級合格を目指す人達を想定して、日本語をフランス語に置き換える作業を通じ、フランス語の統辞法、文章構成法のノウハウを身につけることを学びます。</p> <p>課題文は時事的な文章を主に採用する予定です。</p> <p>皆さんは、先生に作文を添削してもらったとき、どうしてそのように直されたのか理解できなかった経験はありませんか。この授業ではCALL教室を使用する予定なので、教室の機能を利用してリアルタイムに添削を行い、質疑応答を通じて、そのような疑問を解消します。また、インターネットの検索サイトをフランス語構文データベースとして利用するやり方も教授します。</p> <p>授業の性質上、受講者が多すぎると効果が期待できませんので、受講制限をするかもしれません。最初の授業に必ず出席すること。</p>		<p>毎回の授業で、次回の課題文をファイルで配布。仏訳文をあらかじめ用意してくることが受講の条件となる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
課題文は授業時にファイルで配布。		平常点。定期試験は行わないので、出席率がよくなければ、単位取得は望めません。	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	和文仏訳 b 和文仏訳	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
課題文は授業時にファイルで配布。		平常点。定期試験は行わないので、出席率がよくなければ、単位取得は望めません。	

03年度以降（春） 02年度以前（通年）	和文仏訳 a 和文仏訳	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>和仏辞典を片手に逐語訳をしてもフランス語にはなりません。この授業では日本語のテキストから出発して、自分の知っている構文を使いながら、省略、追加、倒置、言い換えなどを行い、いかにフランス人に分かるようなフランス語を書くかを学びます。</p> <p>作文を上達するためには、一にも二にも書いて直してもらいしかありません。自分が書いてきた文を全員で考えながらできるだけ良いフランス語に直していきます。不足している文法項目はその都度学習していきます。</p>		<p>長いテキストを訳していくので、その時間の難易度によって変わります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>『コレクション・フランス語「書く」』（白水社） 『謎がとけるフランス語』（第三書房）</p>		平常点と試験	

03年度以降（秋） 02年度以前（通年）	和文仏訳 b 和文仏訳	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

03 年度以降 (春) 02 年度以前 (通年)	フランス語会話 a フランス語会話	担当者	M.ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectif :</p> <p>Ce cours a pour objectif l'acquisition de connaissances et de techniques qui permettront aux étudiants de prendre la parole en français d'une manière aussi décontractée que possible.</p>		<p>Contenu :</p> <p>Nous travaillerons à partir d'articles de presse, qui évoquent la vie quotidienne des Français et des Japonais d'aujourd'hui. Ce matériel sera le point de départ de notre cours de conversation dont l'objectif est d'améliorer sa capacité de compréhension et d'expression en français. Ce cours s'adresse aux étudiants qui aiment parler, qui jouissent du plaisir de la conversation aussi bien en français qu'en japonais et qui sont décidés à participer activement à tous les types d'exercices proposés.</p> <p>Comme il n'est pas facile de prendre la parole en français, notre séance de conversation commencera généralement par un petit tour de table afin d'échanger les nouvelles de la semaine passée. Cette première partie du cours est une sorte d'échauffement indispensable pour perdre, en l'espace de 90 minutes, sa langue japonaise. Voilà, on va s'efforcer d'oublier le japonais pour laisser place aux mots français.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Venir si possible avec un dictionnaire français.		Un exposé sur un sujet de son choix à faire vers la fin de l'année universitaire.	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (通年)	フランス語会話 b フランス語会話	担当者	M.ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectif :</p> <p>Ce cours a pour objectif l'acquisition de connaissances et de techniques qui permettront aux étudiants de prendre la parole en français d'une manière aussi décontractée que possible.</p>		<p>Contenu :</p> <p>Nous travaillerons à partir d'articles de presse, qui évoquent la vie quotidienne des Français et des Japonais d'aujourd'hui. Ce matériel sera le point de départ de notre cours de conversation dont l'objectif est d'améliorer sa capacité de compréhension et d'expression en français. Ce cours s'adresse aux étudiants qui aiment parler, qui jouissent du plaisir de la conversation aussi bien en français qu'en japonais et qui sont décidés à participer activement à tous les types d'exercices proposés.</p> <p>Comme il n'est pas facile de prendre la parole en français, notre séance de conversation commencera généralement par un petit tour de table afin d'échanger les nouvelles de la semaine passée. Cette première partie du cours est une sorte d'échauffement indispensable pour perdre, en l'espace de 90 minutes, sa langue japonaise. Voilà, on va s'efforcer d'oublier le japonais pour laisser place aux mots français.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Venir si possible avec un dictionnaire français.		Un exposé sur un sujet de son choix à faire vers la fin de l'année universitaire.	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス語会話 a フランス語会話	担当者	H.ドリエツプ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Le but de ce cours est d'aider les étudiants à progresser afin qu'ils puissent s'exprimer de manière naturelle en français.</p> <p>Cette année, deux grands thèmes : le débat et les marionnettes, suivant les semaines et les désirs de chacun.</p> <p>A chaque cours, nous pourrons d'abord consacrer quelques minutes à discuter de ce qui se passe dans la vie quotidienne des étudiants ou dans le monde.</p> <p>Pour le débat, divisés par groupes, les étudiants choisiront un sujet parmi un éventail de thèmes faciles tirés de la vie quotidienne. Puis, après une préparation de quelques minutes, ils exposeront leurs arguments pour essayer de convaincre l'autre partie de leur groupe ou de la classe.</p> <p>Cette année, j'aimerais aussi utiliser des marionnettes en classe, et que l'on s'amuse à les faire parler. Ce sera un essai !</p>		<p>La progression se fera au gré de nos envies, et nous déciderons ensemble à chaque cours ce que nous ferons la semaine suivante.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pas de manuel à acheter.		Une participation active sera bienvenue. Le mode d'évaluation sera décidé ensemble.	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス語会話 b フランス語会話	担当者	H.ドリエツプ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Le but de ce cours est d'aider les étudiants à progresser afin qu'ils puissent s'exprimer de manière naturelle en français.</p> <p>Cette année, deux grands thèmes : le débat et les marionnettes, suivant les semaines et les désirs de chacun.</p> <p>A chaque cours, nous pourrons d'abord consacrer quelques minutes à discuter de ce qui se passe dans la vie quotidienne des étudiants ou dans le monde.</p> <p>Pour le débat, divisés par groupes, les étudiants choisiront un sujet parmi un éventail de thèmes faciles tirés de la vie quotidienne. Puis, après une préparation de quelques minutes, ils exposeront leurs arguments pour essayer de convaincre l'autre partie de leur groupe ou de la classe.</p> <p>Cette année, j'aimerais aussi utiliser des marionnettes en classe, et que l'on s'amuse à les faire parler. Ce sera un essai !</p>		<p>La progression se fera au gré de nos envies, et nous déciderons ensemble à chaque cours ce que nous ferons la semaine suivante.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pas de manuel à acheter.		Une participation active sera bienvenue. Le mode d'évaluation sera décidé ensemble.	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス語会話 a フランス語会話	担当者	C. ヴァンドルディ
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours doit, non seulement permettre à ceux qui le suivent de se débrouiller dans n'importe quelle situation de la vie quotidienne, mais également aux plus avancés, de pouvoir tenir une conversation riche, d'argumenter, de défendre leur opinion face à des Francophones.			
テキスト、参考文献		評価方法	
Pas de livre Documents fournis par le professeur chaque semaine		L'étudiant est évalué sur le travail fait en classe chaque semaine (50%) et lors d'un entretien individuel en fin de l'année universitaire (50%) :	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス語会話 b フランス語会話	担当者	C. ヴァンドルディ
講義目的、講義概要		授業計画	
Ce cours doit, non seulement permettre à ceux qui le suivent de se débrouiller dans n'importe quelle situation de la vie quotidienne, mais également aux plus avancés, de pouvoir tenir une conversation riche, d'argumenter, de défendre leur opinion face à des Francophones.			
テキスト、参考文献		評価方法	
Pas de livre Documents fournis par le professeur chaque semaine		L'étudiant est évalué sur le travail fait en classe chaque semaine (50%) et lors d'un entretien individuel en fin d'année universitaire (50%) :	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス語会話 a フランス語会話	担当者	S. ジュンタ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ON HABITE PAS UN PAYS, ON HABITE UNE LANGUE. CIORAN</p> <p>この授業はフランスのテレビ局の一つである France 2 で流された番組の一部を使用し、子供や若いフランス人の今日の姿を学んでいきます。彼らの生活や考え方を生き生きとしたフランス語で学ぶことにより、フランス語のみならずフランスへの理解もよりいっそう深まることでしょう。理解力、会話力、読解力、作文力を総合的に身につけることをめざし仏検二級の準備も目的とします。教科書に沿った単語の説明と注釈のコピーを新学期の授業の際配布します。ビデオ及びインターネット、また可能なら LL 教室を使用します。</p>		最初の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
SALUT LES JEUNES! (早美出版社)		授業への参加態度による評価(定期試験なし)	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス語会話 b フランス語会話	担当者	S. ジュンタ
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		春学期に同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス語会話 a フランス語会話	担当者	B. レウルス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「実際にフランス人と喋ってみよう」をテーマにフランス語を正確に話せるようにします。</p> <p>LL教室での授業、フランス語で自由に表現できるように語彙を増やし書く能力も身につけていく。Website, chansons, documentaires, films, etc.から今日のフランスも学ぶ。</p> <p>L' objectif de ce cours est la communication en francais. Au laboratoire de langue, les activites de comprehension et d' expression seront variees?: dialogues, documents, chansons, extraits de films et de publicites. Ensemble, decouvrons la France actuelle?: art de vivre, regions, societe.</p>		<p>次の項目を春学期で扱う。</p> <p>1・クラスの仲間を知るために：専攻、アルバイト、好きなことを言う</p> <p>2・映画の話：映画を選ぶ、カンヌ映画祭</p> <p>3・パリの街に住む：部屋を探す、家に友人を呼ぶ</p> <p>4・フランス食生活：メニューを読む、注文をする</p> <p>5・バカンスの話：計画、おみやげ、フランスの地方</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>《Picoti, Picota 2》 ISBN 4-411-00923-4 「ピコティ・ピコタ 2」 駿河台出版社</p>		授業へ積極的な参加・試験は学期末に行います。	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス語会話 b フランス語会話	担当者	B. レウルス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Au second semestre, nous continuerons et approfondirons nos activites autour de nouveaux themes. Ceux-ci permettent une reelle communication?: comprehension et expression.</p>		<p>次の項目を秋学期で扱う。</p> <p>1・デパートやスーパーで買い物をする</p> <p>2・好きなもの、好きなことの言い方</p> <p>3・美容室で：電話で予約、髪型、ネイルサロン</p> <p>4・ショコラから見たフランス・グルメ</p> <p>5・フランス生活暦：クリスマス</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>《Picoti, Picota 2》 ISBN 4-411-00923-4 「ピコティ・ピコタ 2」 駿河台出版社</p>		授業へ積極的な参加・試験は学期末に行います。	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス語会話 a フランス語会話	担当者	R. サクマ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Dans ce cours, il sera question d'intégration et d'accès au savoir et à la culture.</p> <p>S'adressant à des enfants d'âge scolaire, le manuel, très illustré, est facile et attrayant.</p> <p>Il n'y a qu'une quarantaine de pages ce qui nous permettra en douze cours de couvrir la moitié. Nous verrons comment vivent les enfants d'origine étrangère en France et nous parlerons des droits de l'enfant.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Présentation du manuel 2. Les différents personnages. pages 8 et 9 3. Lettre de Said à Adèle pages 10 et 11 4. Lettre de Said à Adèle pages 10 et 11 5. Lettre d'Adèle à Said page 12 6. Lettre de Said à Adèle page 13 7. Adèle parle de la France pages 14 et 15 8. Les droits de l'enfant pages 16 et 17 9. Les droits de l'homme page 18 10. Les conditions de vie page 19 11. Lettre de Said à Adèle page 20 12. Révisions 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>出版者 : Gallimard Jeunesse Collection : Citoyens en herbe Titre : L'intégration Auteur : Céline Braconnier</p>		Participation orale, contrôle continu.	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス語会話 b フランス語会話	担当者	R. サクマ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Dans ce cours, il sera question d'intégration et d'accès au savoir et à la culture.</p> <p>S'adressant à des enfants d'âge scolaire, le manuel, très illustré, est facile et attrayant.</p> <p>Il n'y a qu'une quarantaine de pages ce qui nous permettra en douze cours de couvrir la moitié. Nous verrons comment vivent les enfants d'origine étrangère en France et nous parlerons des droits de l'enfant.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Said écrit à Adèle page 21 2. Adèle répond à Said pages 22 et 23 3. Lettre de Said pages 24 et 25 4. Adèle et ses problèmes page 26 5. Said et ses problèmes page 27 6. La guerre de 1914-1918 pages 28 et 29 7. Adèle et son grand-père page 30 8. Said écrit à Adèle page 31 9. Les fêtes pages 32 et 33 10. Le 14 juillet pages 34 et 35 11. Les vacances pages 36 et 37 12. Révisions 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>出版者 : Gallimard Jeunesse Collection : Citoyens en herbe Titre : L'intégration Auteur : Céline Braconnier</p>		Participation orale, contrôle continu.	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	時事フランス語 a 時事フランス語	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><授業目的> フランス語の聴解練習。 様々なタイプの聴解練習を通して、大意をつかむために必要な「耳」の訓練を行う。</p> <p><授業概要> フランス語を聞き、内容に関する質問に答える形で授業を進める。また「聞く」ために必要になる音の認識を助けるため発音練習もあわせて行う。</p> <p>この授業はフランスに長期留学/長期滞在做していない人を対象に行うので、フランスに長期滞在做していた人はご遠慮ください。 一ヶ月程度の語学研修は可。</p>		<p>扱う録音の一部を紹介する。(順番は未定。)</p> <p>(メディア)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 天気予報 2. コマーシャル 3. 番組案内 4. ニュース 5. その他のテレビやラジオ番組 <p>(メディア以外)</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 映画 7. 電話の自動案内や留守番電話 8. 駅や旅行社での会話 9. 市場や店内での会話 10. 物語や歌の CD など 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。		出席と授業参加態度、課題の提出、授業内コンクール、試験。	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	時事フランス語 b 時事フランス語	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><授業目的> フランス語の聴解練習。 様々なタイプの聴解練習を通して、大意をつかむために必要な「耳」の訓練を行う。</p> <p><授業概要> フランス語を聞き、内容に関する質問に答える形で授業を進める。録音はより長くより自然なものを使用する予定。発音練習は引き続き行う。</p> <p>この授業はフランスに長期留学/長期滞在做していない人を対象に行うので、フランスに長期滞在做していた人はご遠慮ください。 一ヶ月程度の語学研修は可。</p>		<p>扱う録音の一部を紹介する。(順番は未定。)</p> <p>(メディア)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 天気予報 2. コマーシャル 3. 番組案内 4. ニュース 5. その他のテレビやラジオ番組 <p>(メディア以外)</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 映画 7. 電話の自動案内や留守番電話 8. 駅や旅行社での会話 9. 市場や店内での会話 10. 物語や歌の CD など 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。		出席、授業参加態度、課題の提出、授業内コンクール、試験。	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	時事フランス語 a 時事フランス語	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： フランス語で書かれた時事的な文章の内容を正確に把握できるようにする。</p> <p>講義概要・授業内容： テキストとしては中学・高校生向けの週刊新聞 <i>Les Clés de l'actualité</i> の最新の記事を取りあげる。 テキストは事前に配布する。授業では時にキーワードに注目し、討論をまじえながら内容の把握をはかる。 文法事項等、必要な解説は加えるが、いわゆる「講読」(仏文和訳)の授業ではない。少なくとも各自が疑問点を明らかにし、問題意識をもった上で授業にのぞむことが要求される。</p>		<p>第一回目の授業(4月13日)でガイダンスを行う。受講予定者は必ず出席すること。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントで配布。 参考文献はガイダンス時に紹介する。</p>		<p>授業への参加度、レポート、定期試験による。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	時事フランス語 b 時事フランス語	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に同じ</p>		<p>第一回目の授業(9月28日)で春学期定期試験の講評、秋学期からの新規受講者のためのガイダンスを行う。特に新規受講予定者は必ず出席すること。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期に同じ</p>		<p>春学期に同じ</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	商業フランス語 a 商業フランス語	担当者	Ch. パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。</p> <p>この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション(ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など)を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。</p>		<p>次の内容を春学期で扱います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Découvrez l' entreprise 2. Rechercher un emploi 3. Les relations dans le travail 4. Prendre contact par téléphone 5. Organiser son emploi du temps 6. Organiser un déplacement 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席、授業への参加態度及びテスト	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	商業フランス語 b 商業フランス語	担当者	Ch. パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。</p> <p>この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション(ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など)を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。</p>		<p>次の内容を秋学期で扱います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. Marché et résultats de l' entreprise 8. Fabrication et mode d' emploi 9. Passer commande 10. Promotion et vente 11. A propos de règlements 12. Importer et exporter 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席、授業への参加態度及びテスト	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	商業フランス語 a 商業フランス語	担当者	大井正博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>せっかくフランス語を学んでも、商業分野の専門語を知らないとビジネスの場では通用しない。このクラスは、国際貿易の仕組みについてフランス語で書かれたテキストを使い、国際貿易に必要な各種知識ならびに用語を勉強する。</p>		<p>1 Etudes de marchés 2 Adaptation technique des produits 3 Analyse des caractéristiques commerciales du produit 4 Prospection (1) 5 Prospection (2) 6 Participation aux manifestations commerciales 7 Aides liées à la prospection 8 INCOTERMS</p> <p>(上記を春学期 1 2 回で扱う)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Duboin/Paveau/Duphil/Sarhan, <i>Le Commerce international</i> , Editions Foucher		出席、試験による。	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	商業フランス語 b 商業フランス語	担当者	大井正博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>せっかくフランス語を学んでも、商業分野の専門語を知らないとビジネスの場では通用しない。このクラスは、国際貿易の仕組みについてフランス語で書かれたテキストを使い、国際貿易に必要な各種知識ならびに用語を勉強する。</p>		<p>1 Prix d'offre 2 Instruments de paiement 3 Techniques de paiement 4 Remise d'une offre commerciale 5 Négociation commerciale 6 Organisation de la vente à l'exportation 7 Choix des moyens de transport 8 Emballages et conteneurs</p> <p>(上記を秋学期 1 2 回で扱う)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Duboin/Paveau/Duphil/Sarhan, <i>Le Commerce international</i> , Editions Foucher		出席、試験による。	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス語学概論 a フランス語学概論	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：形の変化の面（形態論）、構文の面（統語論）、発音の面（音声学・音韻論）、意味と構文との係わりの面（意味論）から、現代フランス語の仕組みを解明する。今年度は、動詞を中心に講義する。毎回の授業では、その授業でテーマとなる時制について現代フランス語における原則、制約を確認しながら、様々な機能、意味効果について考えていく。</p> <p>その他：受講者のフランス語力は問わないが、フランス語に興味を持ち、授業中には、随時、各自の意見を求めるので、常に考える姿勢を持っていて欲しい。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること。</p>		<p>第1週：ガイダンス 第2週：フランス語の特徴 第3週：時制体系概論 第4週：直説法現在形の特徴 第5週：直説法現在形の本質的価値 第6週：直説法半過去形の特徴 第7週：直説法半過去形の本質的価値 第8週：直説法複合過去形と大過去形の本質的価値 第9週：直説法単純過去形と前過去形の本質的価値 第10週：フランス語の過去時制比較 第11週：まとめ 第12週：試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎週プリントを配布する。参考文献については、授業中に適宜指示する。		出席、授業への積極的参加姿勢、論述形式の試験により評価する。授業中に1度も発言しなかった場合、規定回数以上欠席した場合には、評価しない。	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス語学概論 b フランス語学概論	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ。		<p>第1週：直説法単純未来形の特徴、現在形との対比 第2週：直説法単純未来形と近接未来形の本質的価値 第3週：条件法 第4週：仮定文と時制 第5週：時制の一致 第6週：接続法(1) 第7週：接続法(2) 第8週：分詞法(1) 第9週：分詞法(2) 第10週：時制と文体的効果 第11週：まとめ 第12週：試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス文学概論 a フランス文学概論	担当者	伊藤 幸次
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、主として19・20世紀のフランス文学の紹介をします。ただし単なる文学史ではなく、画像と文学との関係に的を絞ります。19世紀のフランスは視覚による複製芸術の時代でした。つまり原画だけしかない油絵などでなく、版画や写真など安価かつ大量に画像が供給され、それが一般人だけでなく作家の世界観をも決めるようになって来たのです。バルザックは美しい手彩色のリトグラフを好みましたし、ゾラは万国博覧会以来多量に紹介されてジャポニズムを巻き起こした浮世絵版画を、プルーストは凝った演出をした肖像・スナップ写真を好み、創作の源泉にしていました。ただしまだ良質の聴覚による複製芸術はありませんでした。このような観点から近代文学の変遷を辿ってゆきます。</p> <p>先ず受講者は歴史的な知識が充分でないと思われるので、特に大革命以降のフランス史についての入門をしてもらいます。短編を読んでのレポートは学期に3回、選択形式の定期試験とあわせて評価します。資料の配付やレポートの提出は講義支援システムを利用します。</p>		<p>1 授業方法、評価方法の解説。作家、作品、参考資料の紹介。</p> <p>2～5 歴史入門。ディドロ『百科全書』、アンシャン・レジーム、大革命、ナポレオン、復古王政、七月王政、第二帝政など。</p> <p>6～7 メリメの人と作品</p> <p>8～9 スタンダールの人と作品</p> <p>10～12 バルザックの人と作品</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
伊藤幸次著『バルザックとその時代』渡辺出版		レポートおよび資料持込の試験による。	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス文学講読 b フランス文学講読	担当者	伊藤 幸次
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		<p>1～3 フロベールの人と作品</p> <p>4～6 ボードレールの人と作品</p> <p>7～9 ゾラの人と作品</p> <p>10～12 プルーストの人と作品</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

03年度以降（春） 02年度以前（通年）	フランス語史 a フランス語史	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：フランス語の歴史を概説しながら、現代フランス語において一見不思議に見える現象を解明していく。</p> <p>その他：受講者のフランス語力は問わないが、フランス語に興味を持ち、授業中には、随時、各自の意見を求めるので、常に考える姿勢を持って欲しい。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること。</p>		<p>第1回：ガイダンス、授業の進め方等の説明</p> <p>第2回～：以下のようなテーマで講義を扱う（順不同）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「フランス語以前」の「フランス語」 ・本当にフランス語はイタリア語やスペイン語に似ているのか？他に似ている言語はあるのか？ ・なぜ女性なのに、grande-mèreではなく grand-mèreなのか？ ・なぜ名詞には性があるのか？語形で判断できるか？ ・なぜ cheval の複数形は chevaux なのか？ ・なぜ en été, en automne, en hiver なのに、春だけ au printemps なのか？ ・なぜ 70, 90 はたし算やかけ算をしなければならないのか？ ・なぜ前置詞 à には、日本語の「へ」「に」「から」にあたる用法が全てあるのか？ ・なぜ有音と無音の h があるのか？ ・なぜ aller の活用は語幹さえ変わるのか（現在形 : je vais, 未来形 j'irai, 半過去形 j'allais）？ ・なぜフランス語の否定には、ne と pas という2つの要素が必要なのか？ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎週プリントを配布する。参考文献については、授業中に適宜指示する。		出席、授業への積極的参加姿勢、論述形式の試験により評価する。授業中に1度も発言しなかった場合、規定回数以上欠席した場合には、評価しない。	

03年度以降（秋） 02年度以前（通年）	フランス語史 b フランス語史	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス文学史 a フランス文学史	担当者	筒井伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中世から18世紀半ばまでの代表的な作家・作品を取り上げ、その時代背景や思想の流れ、表現の方法などを検討します。</p> <p>春学期は、中世から17世紀前半までの作家・作品を取り上げます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 中世の文学(古仏語とは? 武勲詩:「ロランの歌」叙情詩:トゥルバドゥール) 2. 同上(物語:「トリスタン物語」、クレチアン・ド・トロア) 3. 同上(寓意文学「薔薇物語」、風刺文学「狐物語」、フランソワ・ヴィヨン) 4. 同上(演劇) 5. ルネサンスの文学(ルネサンスとは? ユマニズムとは? 物語:マルグリット・ド・ナヴァール) 6. 同上(ラブレー) 7. 同上(詩:クレマン・マロ、モーリス・セーヴ、ルイーゼ・ラベ) 8. 同上(詩:プレイヤード派 ロンサールとデュ・ベレー) 9. 同上(思想:モンテーニュ) 10. 同上(バロックの詩:ドーヴィニエ)、17世紀の文学(デカルトとリベルタン文学) 11. 17世紀の文学(モラリストたち:ラ・ロシュフコーとパスカル) 12. まとめ (進度によって変更することがある) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『増補 フランス文学案内』(岩波文庫別冊) その他必要に応じて教室で指示する。		定期試験に平常点を加味する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス文学史 b フランス文学史	担当者	井村順一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中世から18世紀半ばまでの代表的な作家・作品を取り上げ、その時代背景や思想の流れ、表現の方法などを検討します。</p> <p>秋学期は、17世紀後半の古典主義時代を中心に、その前後の作家・作品を取り上げます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 バロックと古典主義 2 同上 3 劇作家たち-コルネイユ、モリエール、ラシーヌ、マリヴォー 4 同上 5 同上 6 同上 7 ラ・フォンテーヌ 8 ボシュエ 9 セヴィニエ夫人とラ・ファイエット夫人 10 同上 11 古典主義の総括-ヴォルテール 12 同上 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『増補 フランス文学案内』(岩波文庫別冊) その他必要に応じて教室で指示する。		学期末に論述式の筆記試験を行い、これに出席状況を加味して評価する。	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス語学各論 a フランス語学各論	担当者	古川直世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランス語という外国語が「習得する」対象であるだけでなく、同時に「考える」対象であるということを講義を通して学生へ伝えることをめざす。トピックを春学期と秋学期にひとつずつ設定し講義を行なう。講義の重点はフランス語に見られるさまざまな制約の存在理由について考えることにある。</p>		<p>1 全般的なオリエンテーション。 2-4 冠詞の体系(1):定冠詞の機能。 5-7 冠詞の体系(2):不定冠詞の機能。 8-10 冠詞の体系(3):部分冠詞の機能。 11 冠詞の体系(4):無冠詞の機能。 12 まとめ。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはハンドアウトを配付する。参考文献は必要に応じて随時指示する。</p>		<p>評価は試験成績と出席状況による。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス語学各論 b フランス語学各論	担当者	古川直世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランス語という外国語が「習得する」対象であるだけでなく、同時に「考える」対象であるということを講義を通して学生へ伝えることをめざす。トピックを春学期と秋学期にひとつずつ設定し講義を行なう。講義の重点はフランス語に見られるさまざまな制約の存在理由について考えることにある。</p>		<p>1-3 動詞の体系(1):法、時制、アスペクト。 4-6 動詞の体系(2):半過去。 7-9 動詞の体系(3):代名動詞。 10-11 関係節の諸相 :制限的關係節、同格的關係節、述語的關係節。 12 まとめ。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはハンドアウトを配付する。参考文献は必要に応じて随時指示する。</p>		<p>評価は試験成績と出席状況による。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス語学各論 a フランス語学各論	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>冠詞のないフランス語はありませんが、冠詞は日本語にないために日本人にとっては最もやっかいな問題です。フランス語がかなり上達しても冠詞は最後まで問題になります。できるだけ早い時期に冠詞に対する感受性を養う必要があります。</p> <p>説明と多様な練習問題を通して、冠詞およびその他の限定詞、無冠詞についての理解を深めたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Etre + 冠詞 2. Etre + 冠詞 (exercices) 3. 否定 + 冠詞 4. 否定 + 冠詞 (exercices) 5. 普通動詞+ 冠詞 6. 普通動詞+ 冠詞 (exercices) 7. 一般的なことをあらわす冠詞 le と les 8. 一般的なことをあらわす冠詞 le , les と un 9. 部分冠詞 10. 部分冠詞 11. 冠詞全体に関する練習 12. 冠詞全体に関する練習 	
		評価方法	
プリント		試験	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス語学各論 b フランス語学各論	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>論理的な文を書くために必要な文法を学習します。多少とも論理的な文を書こうとすると、原因、結果、譲歩、目的、仮定など文と文との関係を示す表現が必要になります。品詞的には接続詞、前置詞、動詞など多様な表現を使い分ける必要があります。すべての項目を取り上げることは不可能なので、特に原因、結果、譲歩を表す表現を中心に学習します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 理由をあらわす接続詞 2. 理由をあらわす前置詞 3. 理由をあらわす前置詞 4. 理由をあらわす動詞 5. 結果を表す接続詞 6. 結果を表す接続詞 7. 結果を表す副詞 8. 譲歩を表す接続詞 9. 譲歩を表す前置詞 10. 譲歩を表す表現 11. Articulateur 12. Articulateur 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		試験	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス文学各論 a フランス文学各論	担当者	筒井伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>16世紀フランス・ルネサンスを代表する思想家モンテーニュの著『エッセー』を原文で読みます。『エッセー』の原文は16世紀のフランス語で書かれていて、現在のフランス語と違うところ(文法・綴りなど)があるので、16世紀フランス語の特徴を説明しながら授業を進めます。また「文学」というとすぐ小説や詩のことを思い浮かべますが、そのような文学概念が出来上がったのは19世紀であり、それ以前の「文学」と「歴史」と「思想」がまだ融合していた時代を象徴する作品として『エッセー』を取り上げようと思います。</p> <p>初めは綴りを現代風に直した教科書(プリント)を使います。</p> <p>学生諸君に訳読してもらいます。日本語訳はありますが、必ず辞書に当たって自分の訳文を作ること。</p>		<p>1 全体の説明、参考書の紹介(受講制限をする可能性があるので履修する学生は必ず出席すること)</p> <p>2以降 モンテーニュの説明。16世紀フランス語の説明。『エッセー』の読解。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリント。辞書は「新スタンダード仏和辞典」が必要(学習者用辞書「ディコ」「プチ・ロワイヤル」「ジュネス」などは役に立ちません)</p>		<p>レポートまたは定期試験(受講者数による)、および平常点(出席および授業への参加度)</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス文学各論 b フランス文学各論	担当者	筒井伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>同上。</p> <p>ただし、春学期履修せず、秋学期から履修する学生には、16世紀フランス語の説明を特別にする時間はありません。</p>		<p>『エッセー』の読解。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス文学各論 a フランス文学各論	担当者	保莉瑞穂
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランス語は美しい言語であると言われていますが、それが一番よくわかるのは詩歌においてです。まだフランスの詩に触れたことがない人が多いと思うので、この授業では定型詩の規則に関する簡単な説明からはじめます。それから各時代の比較的やさしい詩をとりあげて、その変化を追いながら、20世紀の自由詩まで読み進めたい。余裕があれば、シャンソンの名曲も紹介したいと思います。</p> <p>詩の美しさを感じ取るためには、正しい発音を身に付けるとともに言葉に対する感性を養うことが何よりも大切です。それには一語一語を丹念に辞書で調べて、十分予習をする必要があります。受講を希望する人はその点をよく考えてから決めてください。</p> <p>詩の翻訳は本来不可能なことですが、できるかぎり美しい日本語に訳す作業も取り入れます。</p> <p>またこの授業では、詩の暗誦を全員に課します。</p> <p>詩に関心がある学生の参加を希望します。</p> <p>受講者数は30名。それを超えたときは、なんらかの方法で選考しますので、受講を希望する人は必ず最初の授業日に来てください。</p>		<p>毎時間、担当者を決めて、詩の解説や翻訳をしてもらいます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは教室でプリントを配布します。 参考書「フランス名詩選」(岩波文庫)</p>		<p>レポート、平常点、および出席の度合いで総合的に評価します。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス文学各論 b フランス文学各論	担当者	保莉瑞穂
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス語学講読 a フランス語学講読	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：辞書があればどんな文章でも読めるようなフランス語力を養成する。</p> <p>講義概要：フランス語の文章を理解するために不可欠な様々な表現・構文を、様々な文体の1～5行程度の文章を丁寧に読んでいく（1つの作品を1年間かけて読んでいくというような形ではない）。</p> <p>その他：全員毎回予習は必須。毎回ランダムに指名して答えてもらう。試験は応用問題を出題するので、授業の中で扱った構文が本当に理解できていなければ得点できない（すなわち、丸暗記では全く点がとれない）。予習はきついでろうが、授業そのものはできるだけ楽しくやる予定である。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること。</p>		<p>第1回：ガイダンス、授業の進め方、予習方法の説明</p> <p>第2回～：以下のような構文を扱う：否定構文（各種否定表現、部分否定、二重否定）、強調構文、推量構文、目的構文、結果構文、対立・譲歩構文、比較構文、時の構文、使役構文、放任構文など。これ以外にも受講生の要望があれば、それを扱う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎週プリントを配布する。参考文献については、授業中に適宜指示する。		出席、授業への積極的参加姿勢、試験により評価する。授業中に1度も発言しなかった場合、規定回数以上欠席した場合には、評価しない。	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス語学講読 b フランス語学講読	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス語学講読 a フランス語学講読	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>読むための文法ではなく、書くために必要な文法は何かを考える。 フランス語を書いてみると、今までの文法だけでは不足していると思われることがよくあります。この授業では、そのような欠落している部分を補いながら、なおざりにされていた文法項目について考えて行きます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体的な説明。プリント配布 2. いくつかの動詞の用法 3. " 4. 時を表す前置詞 5. 時を表す前置詞(exercices) 6. 法と時制 7. 法と時制 8. 場所を表す前置詞 9. " 10. " 11. 手段を表す前置詞 12.. " 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		テスト	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス語学講読 b フランス語学講読	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に同じ</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 属詞を導く de 2. 形容詞の位置と意味 3. " 4. 副詞の種類と位置 5. " 6. 関係代名詞の種類 7.. 関係代名詞と法 8. 関係代名詞と法 (exercices) 9. 中性代名詞、二重代名詞 10. 関係代名詞、二重関係代名詞 11. 名詞 + 名詞 12. 予備日 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		春学期に同じ	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス語学講読 a フランス語学講読	担当者	井村順一
講義目的、講義概要		授業計画	
1) まず正確に読むこと。 2) つぎの段階では速読ができるようになること。 以上の2点を眼目にして訳読を行います。		1回目は授業の説明。 2回目以降は学生の訳読。	
テキスト、参考文献		評価方法	
アンドレ・カルデラ『ナポレオンの生涯』(第三書房)		平常点および期末試験による。	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス語学講読 b フランス語学講読	担当者	井村順一
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ。 春学期の進度を考慮したうえ、新たなテキストを使うこともあります。		1回目は授業の説明。 2回目以降は学生の訳読。	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記参照、目下未定。		平常点および期末試験による。	

03 年度以降 (春) 02 年度以前 (通年)	フランス文学講読 a フランス文学講読	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2000年11月パリで初演された Yasmīna REZA の戯曲 <i>Trois versions de la vie</i> を読みます。</p> <p>作品は、同じ状況設定下で4人(5人?)の登場人物に起こる一晩の出来事を3通り描いたもの。</p> <p>戯曲という形式に抵抗を感じる人もいるでしょうが、観客が耳にして理解できる会話で成り立っていますから、フランス語としては小説よりはるかに平易です。1, 2年でやった <i>Champion</i> あるいは <i>Panorama</i> の dialogues の延長とだけ思えば結構です。</p> <p>戯曲のおもしろさを知ると同時に、現代フランス文学にふれるひとつのきっかけになればと思っています。</p> <p>ガイダンスでも説明しますが、行うのはあくまで「講読」であり、「仏文和訳」ではありません。広く「講読」の名で行われている授業とはおもむきが異なりますから、承知の上受講してください。</p>		<p>第1回目の授業(4月11日)でガイダンスを行います。受講予定者は必ず出席してください。</p> <p>3部構成、全体で100ページ弱の戯曲のうち、半分近くを占める第1部を読み終える予定です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Yasmīna REZA, <i>Trois versions de la vie</i> , Albin Michel, 2000		定期試験 (試験内容はテキストを熟読していないと解答できないものです。)	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (通年)	フランス文学講読 b フランス文学講読	担当者	横地 卓哉
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期参照		<p>第1回目の授業(9月26日)で春学期定期試験の講評、秋学期からの新規受講者のためのガイダンスを行います。特に新規受講予定者は必ず出席してください。</p> <p>第2部、第3部を読み、戯曲全体を読了する予定です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス文学講読 a フランス文学講読	担当者	根本 祐徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目標 比較的読みやすい作品を多く読むことで、フランス語の読解力をつけましょう。</p> <p>講義概要 今年度はMaupassantの『脂肪のかたまり』Boule de suifを読みます。この作品はFlaubertから絶賛された作品で1870年代初頭の普仏戦争を背景に人間の愚かしさ・醜さに対する怒りを独特のタッチで描いたものです。意味の取りにくい部分があれば文化的背景を説明し、文の構造が分かりにくければ例文を挙げて語学的に説明していきます。</p> <p>時間の制約があつて部分的にしか読めませんが、インターネットでPDF書類になっている原文が容易に手に入ります。興味がわいたら、全編を読んでください。授業の進め方などについては最初の授業で詳しく話します。履修希望者は必ず出席してください。希望者が多い場合は授業の性格上制限することがあります。</p>		<p>文学講読という科目の性質上、授業計画を立てるのは難しいことです。履修する学生は必ず予習して出席するのが原則ですが、学生の予習・復習の度合いによって授業の進度を考慮して進めます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『脂肪のかたまり』 Boule de suif 第三書房		前・後期の試験と授業への参加度による。	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス文学講読 b フランス文学講読	担当者	根本 祐徳
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス文学講読 a フランス文学講読	担当者	保莉瑞穂
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今年度は19世紀および20世紀のフランス短編小説のなかから、名作といわれる作品を数点取り上げて、精読します。候補の作家としては20世紀のジュリアン・グリーン、アポリネール、ブルースト、19世紀のモーパッサン、アナトール・フランスなどを考えています。</p> <p>これまでに学んだフランス語の文法の知識をもとにして、文体の異なる作品を読むことによって、フランス語に対する感覚を磨いてもらうことがこの講読の目的です。フランス語の明快さ、美しさなどを味わってください。そのためには各自が十分に予習をして授業に臨んでください。</p> <p>語学的にわかりにくい箇所はその都度、説明をします。</p> <p>受講者は40名程度を限度とします。それを超えた時は何らかの方法で選考を行います。</p>		<p>毎時間、数名の学生にテキストの訳読をしてもらいます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは教室で指示しますので、受講を希望する学生は第1回の授業に出席してください。</p>		<p>学期末の筆記試験、平常点、および出席の程度によって総合的に判定します。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス文学講読 b フランス文学講読	担当者	保莉瑞穂
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス文学講読 a フランス文学講読	担当者	伊藤 幸次
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>昨年度に引き続き 19 世紀フランスの文豪バルザックの代表作の一つ『ゴリオ爺さん』を読みます。この小説はバルザックの連作『人間喜劇』の成立に重要な意味を持っています。</p> <p>また解読にはパリの地誌や 19 世紀の社会史についての知識が欠かせません。そこで授業では単なる読解ではなく、インターネットなどで関連する画像を探し出し具体的に事物を理解するように努めます。映画やビデオによる検証もします。たとえば 2004 年度では馬車についての調査がハイライトでした。</p> <p>学生は担当部分について画像や解説を含めてレポートし、講義支援システム上に掲載します。また支障ない場合はその成果を授業のホームページ上で公開します。なお 2004 年度にこの授業を履修した方も引き続いて登録できます。</p>		<p>1 授業方法、評価方法の解説。作家、作品、参考資料の紹介。</p> <p>2～3 テレビドラマ『バルザック』を元にした作家の生涯の解説。</p> <p>4～12 学生による発表と教員のコメント、討論。画像の紹介と解説。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Balzac, <i>Le père Griot</i> , LGF 伊藤幸次著『バルザックとその時代』渡辺出版			

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス文学講読 b フランス文学講読	担当者	伊藤 幸次
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		1～12 学生による発表と教員によるコメント、討論。画像の紹介と解説。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

03 年度以降 (春) 02 年度以前 (通年)	フランス文学購読 a フランス文学購読	担当者	M.ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Découvrir le plaisir de la lecture à une ou plusieurs voix. Lire seul en français n'est pas facile, mais si on parle avec d'autres personnes du texte qu'on est en train de lire, on se sent stimulé et on peut ainsi connaître la joie d'être allé jusqu'à la fin du livre.</p> <p>Avec ce livre nous aurons l'occasion de parler de la France des années 1940-1945, des conditions de vie des Français pendant la guerre, de la Résistance et de ces Français qui ont résisté au nazisme pour libérer leur pays.</p> <p>Cette lecture sera aussi l'occasion de ne pas OUBLIER les souffrances engendrées par la guerre/les guerres, soixante ans après la fin de la deuxième guerre mondiale.</p>		<p>D'abord, nous lirons ensemble <i>Le petit soleil jaune</i> de Janine Teisson. L'histoire de ce livre se déroule pendant la deuxième guerre mondiale. Marie, raconte son histoire. Elle a cinq ans quand la guerre éclate. Marie, la plus heureuse des petites filles, vit avec sa famille dans une petite ville. Elle a une petite sœur, Josette, qu'elle aime bien taquiner. Le dimanche toute la famille part joyeusement à bicyclette à la campagne. Puis un jour, l'horreur de la guerre pénètre brusquement dans la famille de Marie...</p> <p>Nous attacherons beaucoup d'importance à la lecture à haute voix, une fois que les pages lues ensemble auront été comprises. Dans un deuxième temps, les participants de ce cours choisiront, parmi quelques livres faciles à lire, celui qu'ils liront tout seuls pendant « les grandes vacances ».</p> <p>Très IMPORTANT : je souhaite avoir dans ce cours les mêmes étudiants pendant les deux semestres.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopie Un dictionnaire FRANÇAIS		Présence régulière aux cours.	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (通年)	フランス文学購読 b フランス文学購読	担当者	M.ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Découvrir le plaisir de la lecture à une ou plusieurs voix. Lire seul en français n'est pas facile, mais si on parle avec d'autres personnes du texte qu'on est en train de lire, on se sent stimulé et on peut ainsi connaître la joie d'être allé jusqu'à la fin du livre.</p> <p>Avec ce livre nous aurons l'occasion de parler de la France des années 1940-1945, des conditions de vie des Français pendant la guerre, de la Résistance et de ces Français qui ont résisté au nazisme pour libérer leur pays.</p> <p>Cette lecture sera aussi l'occasion de ne pas OUBLIER les souffrances engendrées par la guerre/les guerres, soixante ans après la fin de la deuxième guerre mondiale.</p>		<p>Nous continuerons la lecture du livre <i>Le petit soleil jaune</i> commencée en avril. Se reporter à ce qui a été écrit dans la case du premier semestre, ci-dessus.</p> <p>Nous attacherons beaucoup d'importance à la lecture à haute voix, une fois que les pages lues ensemble auront été comprises.</p> <p>Une partie du cours sera consacrée à un travail de groupe autour du livre qui aura été lu pendant les vacances.</p> <p>Très IMPORTANT : les étudiants qui s'inscrivent à mon cours en avril sont priés de suivre le cours pendant le deuxième semestre. D'autre part, je ne souhaite pas avoir de nouveaux étudiants en septembre, car ils arriveront en plein milieu de la lecture du livre commencée en avril, ce qui ne présente aucun intérêt.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopie Un dictionnaire FRANÇAIS		Présence régulière aux cours. Un rapport à remettre en décembre. Un exposé sur le livre lu pendant les vacances.	

03 年度以降 (春) 02 年度以前 (通年)	フランス文学購読 a フランス文学購読	担当者	田中成和
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>象徴主義は 19 世紀後半のヨーロッパにおける大きな文学的潮流でした。この授業では、フランス象徴主義を代表するステファヌ・マラルメが若い時期に創作した韻文詩と散文詩を精読します。マラルメといえば、難解というイメージが強い詩人ですが、初期の作品は叙情性が豊かで、それほどむずかしくはありませんから、その美しさをじっくり味わいましょう。</p>		<p>まずマラルメという詩人がどういう人であったのかを解説します。</p> <p>つぎに韻文詩と散文詩を丁寧に読んでいきます。</p> <p>詩の美しさを理解するためには、音読が欠かせませんから、声に出して詩を読む訓練も行います。</p> <p>韻文詩を読むためには、詩法の理解が不可欠です。フランス詩法の基本も教えます。</p> <p>また詩で使われる言葉の多義性を把握するためには、仏仏辞典を引く必要がでてきます。仏仏辞典もいくつかの紹介を紹介しますから、その使い方に少しずつ慣れていくようにしましょう。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントを配布します。</p> <p>参考書は授業の時に指示します。</p>		<p>授業での平常点と期末試験の成績によって評価します。</p>	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (通年)	フランス文学購読 b フランス文学購読	担当者	田中成和
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>同上。</p>		<p>前期に引き続き、マラルメの韻文詩と散文詩を精読していきます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス文化・社会概論 a フランス文化・社会概論	担当者	筒井伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランス文化・社会に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>本講義は複数の担当者によって行われ、テーマは地理・歴史から日常生活まで多岐にわたる。フランス語、フランスに関することながらを学んでいくうえで前提とされる基礎知識、フランス語学科学生に要求されるフランスに関する「常識」を身につけるための講義であるから、フランス文化・社会を専攻しようとするものに対してはもちろんのこと、フランス語学・文学を専攻しようとするものに対しても、第一年次で受講することを強く勧める。</p> <p>講義スケジュールや評価方法、受講上の注意について、第1回目(4月13日)のガイダンスで詳しい説明を行うので、受講希望者は必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 4/13 ガイダンス 筒井伸保 2. 4/20 歴史 藤田朋久 3. 4/27 歴史 藤田朋久 4. 5/11 歴史 藤田朋久 5. 5/18 地理 鈴木隆 6. 5/25 地理 鈴木隆 7. 6/1 地理 鈴木隆 8. 6/8 地理 鈴木隆 9. 6/15 経済 大井正博 10. 6/22 経済 大井正博 11. 6/29 経済 大井正博 12. 7/6 まとめ 筒井伸保 	
テキスト、参考文献		評価方法	
全般に関するものは第1回目のガイダンスで、個々のテーマに関するものは各担当者が授業時に紹介する。		定期試験 平常点(毎回出席カードで出欠をとる。ただし出席カードの不正は減点の対象となる)	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス文化・社会概論 b フランス文化・社会概論	担当者	筒井伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期参照		<ol style="list-style-type: none"> 1. 9/28 政治 井上スズ 2. 10/5 政治 井上スズ 3. 10/12 政治 井上スズ 4. 10/19 思想 若森栄樹 5. 10/26 思想 若森栄樹 6. 11/2 フランス語と世界 田中善英 7. 11/9 日常生活・社会 中村公子 8. 11/16 日常生活・社会 中村公子 9. 11/30 食文化 江花輝昭 10. 12/7 食文化 江花輝昭 11. 12/14 食文化 江花輝昭 12. 12/21 まとめ 筒井伸保 	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	フランス事情	担当者	中村公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>テーマ: 「フランスでの生活」</p> <p><授業目的> 「フランス人のフランスでの生活」を基本にフランスという国について様々な角度から概観し、基礎的な事柄、フランスの文化や伝統、生活習慣、フランス人と日本人について、またフランス語という言語、そしてヨーロッパの中のフランス等、「フランス」についての理解を深める。</p> <p><授業概要> 大きく5つのテーマに分け、それぞれ1～3回にわたって授業で取り上げる。「フランス」という国についての基礎的事柄の習得を目標とするので、暗記する一つの機会として6月に中間試験を行う。また、各人で興味のあるテーマを一つ決め、フランスをよく知るためにレポートを作成する。授業時に配付するプリントはフランス語のものがかなりあるので、履修希望者は、その旨、了承しておいて欲しい。</p>		<p>5つのテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Généralités 2. La France en Europe 3. La vie au quotidien 4. Les loisirs 5. La vie en société 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>必要時にプリントを配布する。 参考文献については、各テーマ毎に必要なに応じて授業中に指示する。</p>		中間試験(50点)とレポート(50点)。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	フランス事情	担当者	前川久美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本近代の洋風建築についてお話する予定です。 具体的な内容と進め方については最初の時間に説明します。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
藤森照信『日本の近代建築』(上、下)岩波新書		テストによる。	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランスの地誌 a フランスの地誌	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、フランスの地域に関して、その実状、課題、取り組み等を知り、それを通してフランスについての理解を深めると同時に、人間の生活もしくは諸活動の場としての地域のあり方を考えることを目的とする。</p> <p>地域の概念と実体および地域の分析の方法などについて説明し、さらに具体的な地域を対象として資料等を参照しながら講義を進める。資料はフランス語で書かれたものを含むので、受講者はある程度のフランス語の読解力を必要とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 地域概念と実体 2 地域概念と実体 (続) 3 地域概念と実体 (続) 4 地域概念と実体 (続) 5 地域分析の方法 6 地域分析の方法 (続) 7 小括 8 パリ盆地の地域 9 パリ盆地の地域 (続) 10 パリ盆地の地域 (続) 11 パリ盆地の地域 (続) 12 パリ盆地の地域 (続) <p>以上の計画には多少の変更もありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは用いない。資料を配布する。参考文献は授業の中で必要に応じて紹介する。</p>		<p>試験の結果による。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランスの地誌 b フランスの地誌	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、フランスの地域に関して、その実状、課題、取り組み等を知り、それを通してフランスについての理解を深めると同時に、人間の生活もしくは諸活動の場としての地域のあり方を考えることを目的とする。</p> <p>地域の概念と実体および地域の分析の方法などについて説明し、さらに具体的な地域を対象として資料等を参照しながら講義を進める。資料はフランス語で書かれたものを含むので、受講者はある程度のフランス語の読解力を必要とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 フランス西部の地域 2 フランス西部の地域 (続) 3 フランス西部の地域 (続) 4 フランス西部の地域 (続) 5 フランス南西部の地域 6 フランス南西部の地域 (続) 7 フランス南西部の地域 8 フランス中部の地域 9 フランス中部の地域 (続) 10 フランス東部の地域 11 フランス東部の地域 (続) 12 まとめ <p>以上の計画には多少の変更もありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは用いない。資料を配布する。参考文献は授業の中で必要に応じて紹介する。</p>		<p>試験の結果による。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランスの歴史 a フランスの歴史	担当者	藤田朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： *フランス史の基礎知識を習得する。 *フランス社会の歴史的な特質を理解する。</p> <p>講義概要： フランス史の概説をおこないます。古代から中世まで、各時代を概観した上で、個別的な問題を取り上げて論じます。また関連史料を読んだり、ビデオなども見る予定です。</p> <p>参考文献： 福井憲彦編「フランス史」(新版世界各国史 12) 山川出版社。その他の文献については、教室で指示する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 古代：ケルト時代 3. 古代：ガロ=ローマ時代 4. 初期中世 (1) 5. 初期中世 (2) 6. 紀元千年について (1) 7. 紀元千年について (2) 8. 盛期中世 (1) 9. 盛期中世 (2) 10. 後期中世 (1) 11. 後期中世 (2) 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。		試験、平常点、など。	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランスの歴史 b フランスの歴史	担当者	藤田朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： *フランス史の基礎知識を習得する。 *フランス社会の歴史的な特質を理解する。</p> <p>講義概要： フランス史の概説をおこないます。16世紀から19世紀まで、各時代を概観した上で、個別的な問題を取り上げて論じます。また関連史料を読んだり、ビデオなども見る予定です。</p> <p>参考文献： 福井憲彦編「フランス史」(新版世界各国史 12) 山川出版社。その他の文献については、教室で指示する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 16世紀 (1) 3. 16世紀 (2) 4. 17世紀 (1) 5. 17世紀 (2) 6. 18世紀 (1) 7. 18世紀 (2) 8. フランス革命 (1) 9. フランス革命 (2) 10. 19世紀 (1) 11. 19世紀 (2) 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。		試験、平常点、など。	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランスの思想 a フランスの思想	担当者	若森栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「考える」とは僕たちがいつも行なっていることです。しかし日常的な考え方が常に正しいとは限りません。この講義では、デカルト、カント、ヘーゲルなどの思想家のテキストを読み、僕たち自身の考え方を深めることを目指します。</p> <p>したがって「フランスの思想」というタイトルになっていますが、もっと広く、ヨーロッパの思考方法一般を扱うつもりです。</p> <p>講義ではありますが、皆さんの積極的な参加を期待します。皆さんにとって発見の多い授業になると思います。</p> <p>場合によっては映画や音楽を参照することがあります。</p>		<p>デカルトの「方法序説」、カントの「啓蒙とは何か」、ヘーゲルの『精神現象学』からの抜粋を詳細に読み解き、現代世界を生み出したヨーロッパ近代の考え方がどのようなものであったかを考えます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: プリント使用 参考文献: 授業の際指示する</p>		レポートと出席点	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランスの思想 b フランスの思想	担当者	若森栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期の続きで、ニーチェ以降、精神分析や現代フランスの思想を扱います。特にデリダ (Jacques Derrida)、モーリス・ブランショ (Maurice Blanchot) のテキストを精読します。たとえば「テロリズム」、「宗教」といった、現代のさまざまな問題を扱うつもりです。</p> <p>講義ではありますが、皆さんの積極的な参加を期待します。皆さんにとって発見の多い授業になると思います。</p> <p>文学についても多く言及するつもりです。</p>		<p>ニーチェの「ツァラツストラはこう言った」のうちの数章を精読し、次にフロイトの精神分析の基本概念を解説します。そして学期後半には、現代フランスの思想、特にデリダとブランショを読み、現代ヨーロッパの最先端的思考がどのようなものなのかを示します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: プリント使用 参考文献: 授業の際指示する</p>		レポートと出席点	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランスの音楽 a フランスの音楽	担当者	松橋麻利
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>西洋のいわゆるクラシック音楽は、初期キリスト教の典礼音楽にそのはじまりがあり、教会の中で重要な部分が発展してきた。</p> <p>ここでクラシック音楽の源流に立ち返り、フランスと周辺国を中心に、時代を追ってその発展過程を辿りながら、宗教と音楽、あるいは人間社会と音楽について学ぶ。そして、音楽だけでなくあらゆる価値観が多様化した現代について、受講者が自分なりに考えるきっかけとすることが目的である。</p> <p>春学期は6世紀頃から17世紀のバロック初期までを対象とする。</p>		<p>1.グレゴリオ聖歌</p> <p>2.オルガスム：多声音楽（ポリフォニー）のはじまり</p> <p>3.12～13世紀の世俗音楽</p> <p>4.13世紀のパリのノートルダム楽派</p> <p>5.13世紀の器楽</p> <p>6.14世紀のアルス・ノヴァ</p> <p>7.15世紀のブルゴーニュ楽派</p> <p>8.16世紀ルネサンスのフランドル楽派 1</p> <p>9.16世紀ルネサンスのフランドル楽派 2</p> <p>10.16世紀末のイタリア</p> <p>11.17世紀バロック初期のオペラ 1</p> <p>12.17世紀バロック初期のオペラ 2</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用せず、プリントを配布する。 参考文献は授業中に紹介する。		出席と試験による。	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランスの音楽 b フランスの音楽	担当者	松橋麻利
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>西洋のいわゆるクラシック音楽は、初期キリスト教の典礼音楽にそのはじまりがあり、教会の中で重要な部分が発展してきた。</p> <p>ここでクラシック音楽の源流に立ち返り、フランスと周辺国を中心に、時代を追ってその発展過程を辿りながら、宗教と音楽、あるいは人間社会と音楽について学ぶ。そして、音楽だけでなくあらゆる価値観が多様化した現代について、受講者が自分なりに考えるきっかけとすることが目的である。</p> <p>秋学期は17世紀バロックから18世紀古典派・19世紀ロマン派初期までを対象とする。</p>		<p>1.バロックの器楽 1</p> <p>2.バロックの器楽 2</p> <p>3.バロックの器楽 3</p> <p>4.バロックの声乐 1</p> <p>5.バロックの声乐 2</p> <p>6.18世紀中期の前古典派 1</p> <p>7.18世紀中期の前古典派 2</p> <p>8.18世紀後期の古典派 1</p> <p>9.18世紀後期の古典派 2</p> <p>10.18世紀後期の古典派 3</p> <p>11.18世紀後期の古典派 4</p> <p>12.19世紀初期のロマン派</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用せず、プリントを配布する。 参考文献は授業中に紹介する。		出席と試験による。	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランスの演劇 a フランスの演劇	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「フランス喜劇の誕生」というテーマで、16世紀から18世紀にかけてのフランス近代演劇が確立した時期に焦点を当て、フランス的な「コメディ」がいかにかに成立し、特有の性格を具えるようになったかを追究します。</p> <p>演劇は戯曲のみによって成立するものではなく、上演されて初めて生命を獲得するものですから、適宜ビデオなどを活用して、不十分ながらも生きた上演に触れるようにしたいと思います。</p> <p>授業は生き物ですから、右の授業計画はあくまで目安でしかありません。そのあたりを十分理解してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 中世演劇における喜劇 3 ルネサンス期における喜劇 4 コンメディア・デラルテー職業劇団の誕生 (1) 5 コンメディア・デラルテー職業劇団の誕生 (2) 6 教会と演劇－「笑い」の抑圧 (1) 7 教会と演劇－「笑い」の抑圧 (2) 8 17世紀前半における喜劇 (1) 9 17世紀前半における喜劇 (2) 10 古典主義演劇理論と喜劇 11 モリエール (1) 12 モリエール (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		学期末のレポートによる評価。ただし、原則として3分の2以上出席しなければ、単位取得は不可とします。	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランスの演劇 b フランスの演劇	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の続き。		<ol style="list-style-type: none"> 1 前期のまとめと後期へのイントロダクション 2 17世紀末における喜劇 3 「縁日芝居」の隆盛 (1) 4 「縁日芝居」の隆盛 (2) 5 マリヴォー (1) 6 マリヴォー (2) 7 18世紀における喜劇 (1) 8 18世紀における喜劇 (2) 9 ボーマルシェ (1) 10 ボーマルシェ (2) 11 全体のまとめ (1) 12 全体のまとめ (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		学期末のレポートによる評価。ただし、原則として3分の2以上出席しなければ、単位取得は不可とします。	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランスの政治 a フランスの政治	担当者	井上スズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、現代フランスの政治の特色を他の議会制民主主義国との相違に注目しつつ理解させることを目的としている。</p> <p>第五共和制成立の特異な状況の説明から始まって、制度の仕組み、選挙結果の動向と政党の変遷等について述べる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第五共和制以前の諸制度 2. 第五共和制の成立 3. 大統領 4. 同上 5. 政府 6. 議会 7. 憲法院とその役割の変化 8. 同上 9. 選挙と政党 10. 同上 11. 同上 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
使用せずプリント配布		レポートと出席状況	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランスの政治 b フランスの政治	担当者	井上スズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>第五共和制のフランス外交の特色を理解させることを目的とする。</p> <p>第五共和制の外交は制度上も事実においても大統領外交であるので、各大統領の個性と外交スタイル、手法について言及するとともに、各大統領が直面した重要な外交課題がどのように取り組まれたかについて述べる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 大統領外交の制度上の装置 (大統領、外相、外務省の説明) 2. ドゴール外交：NATO、対米関係 3. 同上：アフリカ政策 4. 中東政策 5. ポンピドー外交 6. ジスカールデスタン外交：中東政策 7. 同上：アフリカ政策 8. ミッテラン外交：第三世界政策 9. 同上：国防政策 10. 再選後のミッテラン外交：ヨーロッパ問題 11. 同上： 冷戦の終結、ドイツ統一、アフリカ政策の転換 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
使用せず、プリント配布		レポートと出席状況	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス文化・社会各論 a フランス文化・社会各論	担当者	井上たか子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ジゼール・アリミとフランス女性」</p> <p>ジゼール・アリミは、チュニジア生まれの女性弁護士で、国会議員としても活躍しました。彼女の生きた 20 世紀のフランスについて、特に女性の状況の変化に焦点を合わせて考えます。</p> <p>アルジェリア戦争、第二波フェミニズム、パリテなどを中心に、彼女がそこにどのようにコミットしたのかを、文献やビデオなどをおして、学んでほしいと思います。</p>		<p>初回に、より詳しい計画を示します。</p> <p>授業は履修者の発表や討論も加えて進みますので、継続して出席できない事情がある方は、選択しないほうがいいと思います。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書はとくに使いませんが、適宜、関連文献リストや資料を配布します。		毎回提出してもらう短い感想と、授業中の発表や討論などを合わせて評価します。	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス文化・社会各論 b フランス文化・社会各論	担当者	前川 久美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本年度は「フランスの美術」が休講なので、なにかそれに代わるものを用意する予定です。</p> <p>授業の形式としては「講義」ではなく、聴講者が発表したり、議論したりしながら勉強してゆきます。そのため聴講者は、十分な予習と授業への積極的な参加を求められます。</p> <p>具体的には、西洋美術史上のひとつのテーマについて、欧文あるいは日本語の教科書を読みながら、考えてゆくこととなります。</p> <p>テーマについてはそろそろ、中世からなにかと思っはいますが、いまのところまったく未定です。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
未定。		テストによる。	

03 年度以降(春) 02 年度以前(通年)	フランス文化・社会各論 a フランス文化・社会各論	担当者	大井正博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランス経済についてのべた専門書をベースにして、そこでとりあげられている各種問題をなるべくわかりやすく説明する。春学期の前半は欧州連合予算の約半分を占めていた共通農業政策についてまず勉強し、それがフランスの農業に及ぼす影響を考察する。春学期の後半は世界各国が頭を悩ます失業問題を取り上げ、その原因がなにか、さらにはどのような対策があるのかを見てゆく。</p>		<p>1 フランスと EU の農業政策 2 共通農業政策とは何か 3 農業助成金の問題点 4 失業問題 5 失業者の定義 6 失業の原因 7 失業対策</p> <p>(上記を春学期 1 2 回で扱う)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Y. Crozet et al., <i>De l'économie française</i> , Nathan		出席、試験による。	

03 年度以降(秋) 02 年度以前(通年)	フランス文化・社会各論 b フランス文化・社会各論	担当者	大井正博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランス経済についてのべた専門書をベースにして、そこでとりあげられている各種問題をなるべくわかりやすく説明する。秋学期の前半は春学期に続いて失業問題についてまず勉強し、それがフランスの社会に及ぼす影響を考察する。秋学期の後半は貿易大国としてのフランスを取り上げ、その貿易収支動向の要因がなにか、さらには貿易収支改善のためにどのような対策があるのかを見てゆく。</p>		<p>1 失業のもたらす社会問題 2 国際貿易とフランス 3 フランスの国際収支 4 貿易統計における品目分類表 5 フランスの貿易相手国 6 貿易収支の推移とその要因 7 貿易収支改善への道</p> <p>(上記を秋学期 1 2 回で扱う)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Y. Crozet et al., <i>De l'économie française</i> , Nathan		出席、試験による	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス文化・社会講読 a フランス文化・社会講読	担当者	井上スズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランス語の文献を用いて、イラク戦争後の国際関係に関する知識を得るとともに、文法、単語面における能力を高める。</p> <p>かつてフランスに滞在し、現在ハーバード大学教授である S・ホフマンと国際関係専門家 F・ボゾとの対談<L'Amérique vraiment impériale?.>をテキストとして使用する。</p>		テキスト第2章 を講読する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席状況と試験	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス文化・社会講読 b フランス文化・社会講読	担当者	井上スズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランス語の文献を用いて、イラク戦争後の国際関係に関する知識を得るとともに文法単語面における能力を高める。</p> <p>かつてフランスに滞在し、現在ハーバード大学教授である S・ホフマンとフランスの国際関係専門家 F・ボゾとの対談<L'Amérique vraiment impériale?>をテキストとして使用する。</p>		テキスト最終章 国連の将来 に関する部分を講読する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席状況と試験	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス文化・社会講読 a フランス文化・社会講読	担当者	田桐正彦
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語のさまざまなテキストを読みますが、それだけが目的ではなく、フランスの文化に親しもうという雑学的な授業です。★印の回には発表をしてもらいます。教室を少人数のグループに分けて授業をします。		① ガイダンス、作業班の編成、発表テーマの割り当て フランス語圏の演劇 I ② 名優気分をちょっとだけ その1 下読み フランスの美術 ③ パリ美術館めぐり その1 ④ パリ美術館めぐり その2 ⑤ 鑑賞1 ⑥ 鑑賞2 美術書を読む フランス料理 ⑦ レシピの読み方 ⑧★歴史と概論、各地方の料理 フランスのスポーツ ⑨★サッカー、ツール・ド・フランス、全仏オープン フランス語圏の演劇 II ⑩ ある演出家・俳優へのインタビューを読む その1 ⑪ ある演出家・俳優へのインタビューを読む その2 ⑫★名優気分をちょっとだけ その2 発表会	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。参考文献についてはアドバイスをしていきます。インターネットも活用しましょう。		試験、平常点、出席状況で評価します。	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス文化・社会講読 b フランス文化・社会講読	担当者	田桐正彦
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス語のさまざまなテキストを読みますが、それだけが目的ではなく、フランスの文化に親しもうという雑学的な授業です。★印の回には発表をしてもらいます。教室を少人数のグループに分けて授業をします。		フランスの音楽 I ① 作業班の編成、発表テーマの割り当て シャンソン1曲マスター講座 その1 フランスのファッション ② ファッション記事・広告を読んでみよう その1 ③ ファッション記事・広告を読んでみよう その2 フランス映画 ④★歴史と概論、監督紹介など ⑤ シナリオを読む その1 ⑥ シナリオを読む その2 ⑦ 鑑賞1 ⑧ 鑑賞2 シナリオを読む その3 ⑨★わたしのおすすめ フランスの音楽 II ⑩ 鑑賞1 ⑪ 鑑賞2 ⑫★シャンソン1曲マスター講座 その2 発表会	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布します。参考文献についてはアドバイスをしていきます。インターネットも活用しましょう。		試験、平常点、出席状況で評価します。	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス文化・社会講読 a フランス文化・社会講読	担当者	藤田朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： *フランス語の読解力を高める。 *フランスの歴史や社会に対する理解を深める。</p> <p>講義概要： フランス人の名前をめぐる様々な問題について、下記の文献を読みながら概観します。</p>		1回の授業で2ページほど読み進み、春学期で全体を終える予定です。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Jean-Louis BEAUCARNOT, <i>D'où vient ton nom ?</i> (Albin Michel Jeunesse) Paris, 2002.		平常点、試験、など。	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス文化・社会講読 b フランス文化・社会講読	担当者	藤田朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： *フランス語の読解力を高める。 *フランスの歴史や社会に対する理解を深める。</p> <p>講義概要： フランス人の名前をめぐる個別的な問題について、雑誌や新聞記事を読みながら考えます。(1) 家名の起源、(2) 夫婦別姓や子供の名前の問題、(3) 1970年代後半から盛んになった系図作り・先祖探しについて、など。</p>		雑誌に掲載された評論や、新聞記事などを数点読む予定です。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。		平常点、試験、など。	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス文化・社会講読 a フランス文化・社会講読	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、文献の講読を中心として講義を行うことにより、フランスの文化と社会について理解を深め、且つ、より高度なフランス語の習得を図ることを目的とする。</p> <p>本年度の講義では、フランスの自然環境および生活環境に関する文献を取り上げる。受講生は予め割り当てられた文献について発表を行う。その後で発表内容についての補足的・発展的な説明を加える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 フランスの自然遺産・海岸・山岳 2 フランスの自然遺産・海岸・山岳 (続) 3 フランスの自然遺産・海岸・山岳 (続) 4 フランスの自然遺産・海岸・山岳 (続) 5 フランスの自然遺産・海岸・山岳 (続) 6 フランスの自然遺産・海岸・山岳 (続) 7 フランスの自然遺産・海岸・山岳 (続) 8 フランスの自然遺産・海岸・山岳 (続) 9 フランスの自然遺産・海岸・山岳 (続) 10 フランスの自然遺産・海岸・山岳 (続) 11 フランスの自然遺産・海岸・山岳 (続) 12 フランスの自然遺産・海岸・山岳 (続) <p>以上の計画には多少の変更もありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講読の資料を最初の授業で配布する。参考文献は必要に応じて授業の中で紹介する。		主として試験の結果によって評価する。授業中の発表も考慮する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス文化・社会講読 b フランス文化・社会講読	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、文献の講読を中心として講義を行うことにより、フランスの文化と社会について理解を深め、且つ、より高度なフランス語の習得を図ることを目的とする。</p> <p>本年度の講義では、フランスの自然環境および生活環境に関する文献を取り上げる。受講生は予め割り当てられた文献について発表を行う。その後で発表内容についての補足的・発展的な説明を加える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 フランスの社会と環境 2 フランスの社会と環境 (続) 3 フランスの社会と環境 (続) 4 フランスの社会と環境 (続) 5 フランスの社会と環境 (続) 6 フランスの社会と環境 (続) 7 フランスの社会と環境 (続) 8 フランスの社会と環境 (続) 9 フランスの社会と環境 (続) 10 フランスの社会と環境 (続) 11 フランスの社会と環境 (続) 12 フランスの社会と環境 (続) <p>以上の計画には多少の変更もありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講読の資料を最初の授業で配布する。参考文献は必要に応じて授業の中で紹介する。		主として試験の結果によって評価する。授業中の発表も考慮する。	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス文化・社会講読 a フランス文化・社会講読	担当者	井上たか子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランスの女性の生き方とその背景にある状況について記したテキストを読みます。 教材は主として新聞・雑誌・インターネットなどから選びますので、時事的なものが多くなると思います。</p> <p>易しいものから始めて、徐々にレベルをあげていきますので、継続的に出席することが肝要です。</p>		<p>授業の進め方については、初回に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度、プリントを配布します。		授業中の参加度と期末テスト	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス文化・社会講読 b フランス文化・社会講読	担当者	井上たか子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランスの女性の生き方とその背景にある状況について記したテキストを読みます。 教材は主として新聞・雑誌・インターネットなどから選びますので、時事的なものが多くなると思います。</p> <p>易しいものから始めて、徐々にレベルをあげていきますので、継続的に出席することが肝要です。</p>		<p>授業の進め方については、初回に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度、プリントを配布します。		授業中の参加度と期末テスト	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス文化・社会講読 a フランス文化・社会講読	担当者	井上美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランス語圏の文化や社会現象を、新聞記事読解とホームページ閲覧を通じて、理解することが授業の目的です。</p> <p>授業では、次の4種類の練習を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. まず、フランスのニュース番組 France 2 の最近のニュースを1本見ます。 2. 次に、同じテーマを扱った新聞記事の読解練習を行います。記事は、フランスで出版されている高校生向けの新聞からの抜粋です。 3. そして、やはり同じテーマを扱ったフランス語のホームページから、必要な情報を探す練習を行います。 4. 最後に、新聞記事とホームページに現れた語彙や表現を覚える練習を行います。 <p>とりあげるテーマは、毎週変わります。パソコンを使った学習ですので、自分のペースで練習問題を解き進めます。そして、時間を区切って、教員による解説が行われます。</p>		<p>毎週の新しいニュースを使いますので、2005年度に取り扱うテーマや順番は決まっています。参考までに、2004年度春学期にとりあげたテーマを以下に紹介します。</p> <p>4月のできごと テロの脅威：イスラム教のスカーフ問題 イラク人質事件：解放されたフランス人人質 自動車製造業：プジョーシトロエン東欧へ進出 CD業界の不振：違法ダウンロードが原因</p> <p>5月のできごと 5月1日：すずらんの日 薬と医療：サノフィ、アベンティスを買収 EU拡大 カンヌ映画祭 エアバス対ボーイング：世界最大の旅客機のお披露目</p> <p>6月のできごと アンチ・アメリカニズム：サミット Club Med：Accorグループ、Club Medの筆頭株主に NATOと国防の仕事：NATO首脳会議開催直前</p> <p>6月のできごと 風力発電：6月の「持続可能な発展週間」</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
辞書を持参して下さい。		単位を取得するには、75%以上の出席率が必要です。成績の評価区分は、学期末テストの点数で決めます。	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス文化・社会講読 b フランス文化・社会講読	担当者	井上美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランス語圏の文化や社会現象を、新聞記事読解とホームページ閲覧を通じて、理解することが授業の目的です。</p> <p>授業では、次の4種類の練習を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. まず、フランスのニュース番組 France 2 の最近のニュースを1本見ます。 2. 次に、同じテーマを扱った新聞記事の読解練習を行います。記事は、フランスで出版されている高校生向けの新聞からの抜粋です。 3. そして、やはり同じテーマを扱ったフランス語のホームページから、必要な情報を探す練習を行います。 4. 最後に、新聞記事とホームページに現れた語彙や表現を覚える練習を行います。 <p>とりあげるテーマは、毎週変わります。パソコンを使った学習ですので、自分のペースで練習問題を解き進めます。そして、時間を区切って、教員による解説が行われます。</p>		<p>毎週の新しいニュースを使いますので、2005年度に取り扱うテーマや順番は決まっています。参考までに、2004年度秋学期にとりあげたテーマを以下に紹介します。</p> <p>9月のできごと 遺伝子組み換え作物：ジョゼ・ボヴェ氏 ゴーン氏：日産、ルノー、シトロエン パリコレ</p> <p>10月のできごと Evin 法修正か？：アルコール類の広告に関する規制 TGV Est 線着工：TGVと新幹線 アラファト議長とパレスチナ問題</p> <p>11月のできごと コートジボワール Millau 高架橋、開通間近：世界一高い橋 フランス語圏サミット開催</p> <p>12月のできごと アルザス地方 Colmar のクリスマス市：サンタクローストルコ、EU加盟交渉開始へ 津波被災国への援助：「赤十字」と「国境なき医師団」</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
辞書を持参して下さい。		単位を取得するには、75%以上の出席率が必要です。成績の評価区分は、学期末テストの点数で決めます。	

03年度以降(春) 02年度以前(通年)	フランス文化社会講読 a フランス文化社会講読	担当者	若森栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2004年度に引き続き、フロイトの『性理論に関する3つの論文 trois traités sur la théorie sexuelle』を読みます。昨年度は第2部を読んだので、今年は第3部「思春期における性の諸相」を中心にして、幼児期にすでにあらわれていた性のさまざまな現象が、思春期以降どのような変遷をたどるかを考えます。</p> <p>この授業の目的のひとつは、内容のあるフランス語の文章を読む力をつけることです。フランス語を通じてものと考え、物事に対する新しい見方できるようになれば幸いです。</p> <p>皆さんに訳してもらいますが、あたって人は必ず予習してください。</p>		授業の際指示します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		成績はレポートに出席点を加味して付けます。	

03年度以降(秋) 02年度以前(通年)	フランス文化社会講読 b フランス文化社会講読	担当者	若森栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続き、フロイトの『性理論に関する3つの論文 trois traités sur la théorie sexuelle』を読みます。第3部「思春期における性の諸相」を中心にして、幼児期にすでにあらわれていた性のさまざまな現象が、思春期以降どのような変遷をたどるかを考えます。</p> <p>この授業の目的のひとつは、内容のあるフランス語の文章を読む力をつけることです。フランス語を通じてものと考え、物事に対する新しい見方できるようになれば幸いです。</p> <p>皆さんに訳してもらいますが、あたって人は必ず予習してください。</p>		授業の際指示します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		成績はレポートに出席点を加味して付けます。	

02年度以前 (春)	英語 (基礎会話Ⅲ)	担当者	J. Stephenson
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class will focus on conversation and basic presentation skills.</p> <p>In class, you will have opportunities to speak about a variety of topics. You will learn also learn ways to improve your speaking skills. You do not need to be perfect, but it is important to try to communicate, and to use English as much as you can.</p> <p>You are expected to attend and actively participate in each class, to complete homework assignments and reflect on your learning in a journal. In addition, you will do one presentation and have an interview with the teacher at the end of the term.</p> <p>Please note that attendance is very important, and students who miss 4 or more classes will not be able to pass this class. Fourth year students who must miss classes for job hunting will be asked to do extra work to make up for the work they miss.</p>		<p>Lesson 1 Introduction</p> <p>Lessons 2-6 Units from the textbook Learning about presentations</p> <p>Lessons 7-10 Units from the textbook Student presentations</p> <p>Lessons 11-12 Review Interviews</p> <p>As we will not have enough time to cover all units of the textbook, you will be able to choose the units that you are most interested in. We will talk about this more in the first two lessons of the semester.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The textbook will be announced after the first lesson.		30% Participation 20% Journal 10% Homework 20% Presentation 20% Interview	

02年度以前 (秋)	英語 (基礎会話Ⅲ)	担当者	J. Stephenson
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class will focus on conversation and basic presentation skills.</p> <p>In class, you will have opportunities to speak about a variety of topics. You will learn also learn ways to improve your speaking skills. You do not need to be perfect, but it is important to try to communicate, and to use English as much as you can.</p> <p>You are expected to attend and actively participate in each class, to complete homework assignments and reflect on your learning in a journal. In addition, you will do one presentation and have an interview with the teacher at the end of the term.</p> <p>Please note that attendance is very important, and students who miss 4 or more classes will not be able to pass this class. Fourth year students who must miss classes for job hunting will be asked to do extra work to make up for the work they miss.</p>		<p>Lesson 1 Introduction</p> <p>Lessons 2-6 Units from the textbook Learning about presentations</p> <p>Lessons 7-10 Units from the textbook Student presentations</p> <p>Lessons 11-12 Review Interviews</p> <p>As we will not have enough time to cover all units of the textbook, you will be able to choose the units that you are most interested in. We will talk about this more in the first two lessons of the semester.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
We will use the same textbook as in the first semester.		You will be graded according to: Participation Journal Homework Presentation Interview You will be given more details in the first lesson.	

02年度以前(春)	英語(基礎作文Ⅲ)	担当者	飯島優雅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>このライティングコースは独仏の選択科目です。ある程度の英文法の知識はあるけれど、実際に英語で文章を書くことに自信をつけたい、という学生のためのコースです。</p> <p>このコースでは、最小限必要な英文法の実践力を強化しながら、自分の考えをわかりやすく相手に伝えるパラグラフライティングの技術を訓練します。また、よい文章を書くために必要不可欠なライティングのプロセスを身につけるため、文章を書く前の計画方法と書いた後の校正方法も学びます。</p> <p>英語のライティング力は、訓練で身につきますので、学生には授業内外で、どんどん書いてもらいます。このコースで訓練する、意味の通る文章を書く技術は、大学のみならず、実社会でのコミュニケーションに大いに役立つはずで</p>		<p>第1回目の授業で詳細を説明しますが、主に次の項目を取り上げます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Writing about people 2. Narration 3. Description 4. Paragraph organization 5. More about paragraph organization 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Alice Oshima & Ann Hogue 著 <i>Introduction to Academic Writing</i>. Longman</p>		出席、授業参加、宿題、テスト、ポートフォリオ	

02年度以前(秋)	英語(基礎作文Ⅲ)	担当者	飯島優雅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>このライティングコースは独仏の選択科目です。</p> <p>このコースでは、春学期に練習したパラグラフライティングを応用して、エッセイの書き方とそのプロセスを学びます。読み手に意見がはっきり伝わるようなエッセイの構成、論理的なアイデアのまとめ方、主張のサポートのしかたなどを、校正を数回繰り返しながら身につけていきます。</p> <p>ライティングは授業外でも時間をとる作業ですが、このコースで1年間訓練を積み、英語のライティング力と論理的な思考力が必ず伸びます。熱意をもって学びに取り組む学生の受講を期待します。</p>		<p>第1回目の授業で詳細を説明しますが、主に次の項目を取り上げます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Paragraph organization: review 2. Essay organization 3. Logical division of ideas 4. Supporting an opinion 5. Comparison and contrast 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Alice Oshima & Ann Hogue 著 <i>Introduction to Academic Writing</i>. Longman Longman</p>		出席、授業参加、宿題、テスト、ポートフォリオ	

02年度以前(通年)	英語(基礎読解Ⅲ)	担当者	岡田 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この科目は旧カリの通年科目です。対象はドイツ語・フランス語学科の3,4年生です。</p> <p>この科目のねらいは、オールラウンドな英語力をつけること。読解となっておりますが、英作文の要素も加え、特に書くことと読むことの力をつけることを目標とします。</p> <p>読むだけでなく、読んだものについて考え、自分の意見を持つ、という姿勢を養っていきたいと考えています。</p> <p>教科書は1冊を指定し、さらに新聞や雑誌の記事をauthenticな補助教材として用います。</p> <p>予習・復習も多く、かなり厳しい授業になると思いますが、英語力アップ(特に読む力、書く力)間違いなしです。</p>		<p>1 Orientation</p> <p>2 Chapter 1</p> <p>3 補助教材</p> <p>4 Chapter 2</p> <p>5 補助教材</p> <p>6 Chapter 3</p> <p>7 補助教材</p> <p>8 Chapter 4</p> <p>9 補助教材</p> <p>10 Chapter 5</p> <p>11 補助教材</p> <p>12 Chapter 6</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Leading Companies in the 21st Century(松柏社) 補助教材は担当者が準備する		通年科目のため、秋学期に評価	

02年度以前(通年)	英語(基礎読解Ⅲ)	担当者	岡田 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春の授業の継続として、読解力、作文力をつけ、大学生にふさわしい英語運用力を身につけてもらうことを目標とします。</p> <p>春と同様予習・復習も多く、かなり厳しい授業になると思いますが、英語力アップ(特に読む力、書く力)間違いなしです。</p>		<p>1 Chapter 7</p> <p>2 補助教材</p> <p>3 Chapter 8</p> <p>4 補助教材</p> <p>5 Chapter 9</p> <p>6 補助教材</p> <p>7 Chapter 10</p> <p>8 補助教材</p> <p>9 Chapter 11</p> <p>10 補助教材</p> <p>11 Chapter 12</p> <p>12 Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Leading Companies in the 21st Century(松柏社) 補助教材は担当者が準備する		出席、小テスト、期末テスト、語彙小テストなどを合計して総合的に評価する。	

02年度以前(通年)	英語(上級会話Ⅲ)	担当者	C.カーペンター
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The main goal of this class is to help students increase their confidence and fluency in discussions of current events and contemporary topics. Discussions will be based on topics we investigate in readings, videos, interviews with each other, and individual research. We will cover a wide range of issues, including lifestyles, family and personal relationships, global issue, social issues, and more.</p> <p>Students must be prepared to actively participate in classroom discussions class. The teacher will guide and support you in your reading, listening, research, and discussions, but students will do most of the talking in this class.</p>		<p>Semester 1</p> <p>Week 1: Orientation and Level-Test</p> <p>Weeks 2 – 11: Various discussion topics to be announced. Others to be self-selected by students.</p> <p>Week 12: Final Assessment</p> <p>※ A more complete and detailed schedule will be given in class. The schedule is always subject to changes and adjustments.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The text and recommended references will be announced in class.		Grades will be based on active participation, quizzes, homework, and tests. (※ <i>Attendance is required.</i> More than 3 days absent in one semester and you cannot pass this class.)	

02年度以前(通年)	英語(上級会話Ⅲ)	担当者	C.カーペンター
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Same as above.</p> <p>※ During the second semester, students will have greater responsibility for selecting discussion topics and will do more individualized research on these topics.</p>		<p>Semester 2</p> <p>Week 13: Getting re-acquainted</p> <p>Weeks 14 – 23: Various discussion topics to be announced. Others to be self-selected by students.</p> <p>Week 24: Final Assessment</p> <p>※ A more complete and detailed schedule will be given in class. The schedule is always subject to changes and adjustments.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The text and recommended references will be announced in class.		Grades will be based on active participation, quizzes, homework, and tests. (※ <i>Attendance is required.</i> More than 3 days absent in one semester and you cannot pass this class.)	

02年度以前(通年)	英語(上級読解Ⅲ)	担当者	佐藤 保																																																															
講義目的、講義概要		授業計画																																																																
<p>できる限り身近な内容のものを選んだので、技術に専門でない人にも容易に理解できます。担当教員自身も文科系出身である(Master of Arts)が、技術翻訳には20年以上の経験を持っており、実務翻訳就職希望者(part-time, permanent job いずれの場合も)の相談には、大いに応じたいと思っています(例えば、昼休み(308教室)や、時には課外(居酒屋、等)で。</p>		<table border="0"> <tr><td>1</td><td>MINIATURIZATION</td><td>10</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>11</td></tr> <tr><td>2</td><td>WHY IS TEMPERATURE RISING</td><td>12</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>13</td></tr> <tr><td>3</td><td>WHAT MAKES AN ATMOSPHERE</td><td>14</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>15</td></tr> <tr><td>4</td><td>THE SURFACE OF THE SEA</td><td>16</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>17</td></tr> <tr><td>5</td><td>HOW TO REMOVE SALT FROM SEAWATER</td><td>18</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>19</td></tr> <tr><td>6</td><td>THE PURPOSES OF TVA</td><td>22</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>23</td></tr> <tr><td>7</td><td>INDUSTRIAL POLLUTION</td><td>24</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>25</td></tr> <tr><td>8</td><td>BATTERY AND CURRENT FLOW</td><td>26</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>27</td></tr> <tr><td>9</td><td>BELL SYSTEM</td><td>28</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>29</td></tr> <tr><td>10</td><td>THE OPERATION OF THE ELECTRIC EYE</td><td>30</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>31</td></tr> <tr><td>11</td><td>ULTRASONICS</td><td>32</td></tr> </table>		1	MINIATURIZATION	10		Exercise	11	2	WHY IS TEMPERATURE RISING	12		Exercise	13	3	WHAT MAKES AN ATMOSPHERE	14		Exercise	15	4	THE SURFACE OF THE SEA	16		Exercise	17	5	HOW TO REMOVE SALT FROM SEAWATER	18		Exercise	19	6	THE PURPOSES OF TVA	22		Exercise	23	7	INDUSTRIAL POLLUTION	24		Exercise	25	8	BATTERY AND CURRENT FLOW	26		Exercise	27	9	BELL SYSTEM	28		Exercise	29	10	THE OPERATION OF THE ELECTRIC EYE	30		Exercise	31	11	ULTRASONICS	32
1	MINIATURIZATION	10																																																																
	Exercise	11																																																																
2	WHY IS TEMPERATURE RISING	12																																																																
	Exercise	13																																																																
3	WHAT MAKES AN ATMOSPHERE	14																																																																
	Exercise	15																																																																
4	THE SURFACE OF THE SEA	16																																																																
	Exercise	17																																																																
5	HOW TO REMOVE SALT FROM SEAWATER	18																																																																
	Exercise	19																																																																
6	THE PURPOSES OF TVA	22																																																																
	Exercise	23																																																																
7	INDUSTRIAL POLLUTION	24																																																																
	Exercise	25																																																																
8	BATTERY AND CURRENT FLOW	26																																																																
	Exercise	27																																																																
9	BELL SYSTEM	28																																																																
	Exercise	29																																																																
10	THE OPERATION OF THE ELECTRIC EYE	30																																																																
	Exercise	31																																																																
11	ULTRASONICS	32																																																																
テキスト、参考文献		評価方法																																																																
<p>科学技術英語の基礎(南雲堂) 実務翻訳ガイド2005年度版(アルク社)</p>		<p>(平常点) 5点×□(回) = □点 (定期試験) 15点×6(問) = 90点</p>																																																																

02年度以前(通年)	英語(上級読解Ⅲ)	担当者	佐藤 保																																																																											
講義目的、講義概要		授業計画																																																																												
<p>できる限り身近な内容のものを選んだので、技術に専門でない人にも容易に理解できます。担当教員自身も文科系出身である(Master of Arts)が、技術翻訳には20年以上の経験を持っており、実務翻訳就職希望者(part-time, permanent job いずれの場合も)の相談には、大いに応じたいと思っています(例えば、昼休み(308教室)や、時には課外(居酒屋、等)で。</p>		<table border="0"> <tr><td>1</td><td>ELECTRIC FURNACE</td><td>34</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>35</td></tr> <tr><td>2</td><td>TELEVISION-HOW THE PICTURE IS TELECAST</td><td>36</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>37</td></tr> <tr><td>3</td><td>ELECTRONIC COMPUTERS</td><td>38</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>39</td></tr> <tr><td>4</td><td>THE BRAIN IN SPACE</td><td>40</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>41</td></tr> <tr><td>5</td><td>ROCKETS</td><td>42</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>43</td></tr> <tr><td>6</td><td>ORBIT OF SATELLITE</td><td>44</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>45</td></tr> <tr><td>7</td><td>IMP SATELLITES AND SOLAR WIND</td><td>46</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>47</td></tr> <tr><td>8</td><td>AN ELECTRONIC HIGHWAY</td><td>48</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>49</td></tr> <tr><td>9</td><td>MULTIDIRECTIONALLY STRETCHABLE PAPER</td><td>50</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>51</td></tr> <tr><td>10</td><td>PLASTICS</td><td>52</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>53</td></tr> <tr><td></td><td>ARTIFICIAL FIBERS</td><td>54</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>55</td></tr> <tr><td></td><td>TENSILE STRENGTH</td><td>56</td></tr> <tr><td></td><td>Exercise</td><td>57</td></tr> <tr><td></td><td>ELECTRICITY IN THE HOME</td><td>58</td></tr> </table>		1	ELECTRIC FURNACE	34		Exercise	35	2	TELEVISION-HOW THE PICTURE IS TELECAST	36		Exercise	37	3	ELECTRONIC COMPUTERS	38		Exercise	39	4	THE BRAIN IN SPACE	40		Exercise	41	5	ROCKETS	42		Exercise	43	6	ORBIT OF SATELLITE	44		Exercise	45	7	IMP SATELLITES AND SOLAR WIND	46		Exercise	47	8	AN ELECTRONIC HIGHWAY	48		Exercise	49	9	MULTIDIRECTIONALLY STRETCHABLE PAPER	50		Exercise	51	10	PLASTICS	52		Exercise	53		ARTIFICIAL FIBERS	54		Exercise	55		TENSILE STRENGTH	56		Exercise	57		ELECTRICITY IN THE HOME	58
1	ELECTRIC FURNACE	34																																																																												
	Exercise	35																																																																												
2	TELEVISION-HOW THE PICTURE IS TELECAST	36																																																																												
	Exercise	37																																																																												
3	ELECTRONIC COMPUTERS	38																																																																												
	Exercise	39																																																																												
4	THE BRAIN IN SPACE	40																																																																												
	Exercise	41																																																																												
5	ROCKETS	42																																																																												
	Exercise	43																																																																												
6	ORBIT OF SATELLITE	44																																																																												
	Exercise	45																																																																												
7	IMP SATELLITES AND SOLAR WIND	46																																																																												
	Exercise	47																																																																												
8	AN ELECTRONIC HIGHWAY	48																																																																												
	Exercise	49																																																																												
9	MULTIDIRECTIONALLY STRETCHABLE PAPER	50																																																																												
	Exercise	51																																																																												
10	PLASTICS	52																																																																												
	Exercise	53																																																																												
	ARTIFICIAL FIBERS	54																																																																												
	Exercise	55																																																																												
	TENSILE STRENGTH	56																																																																												
	Exercise	57																																																																												
	ELECTRICITY IN THE HOME	58																																																																												
テキスト、参考文献		評価方法																																																																												
<p>科学技術英語の基礎(南雲堂) 実務翻訳ガイド2005年度版(アルク社)</p>		<p>(平常点) 5点×□(回) = □点 (定期試験) 15点×6(問) = 90点</p>																																																																												

02年度以前(春)	英語(上級作文Ⅲ)	担当者	保坂 華子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際化社会にあつて世界の動きを理解し、自分の考えを表現するには、英語で問題を捉え、自分のことばで正確に考えを伝えることも重要なスキルとなります。</p> <p>このクラスでは、英語で提示された問題(issue)に関して、①まず「読んで理解」し、②自分の「考えをまとめ」、③その問題について「クラスで理解を深め」、④「考えを整理」し、⑤「自分のことばで表現する」「論じる」、という過程をつんでいきます。</p> <p>語学の習得には「授業の参加者の積極性」が必要不可欠です。必ず予習や課題をし、辞書を持参してください。授業では順番に当てていきます。作文のクラスですから、どんどん書いていきましょう。</p> <p>進度を見ながら随時テキスト以外の教材も取り入れ、1-2回に1章程度を予定しています。</p>		<p>1 授業方法、注意事項、テキストの説明他</p> <p>2 Basic skills in paragraph writing</p> <p>3以降 基本的にUnit 1から順に進みます。 (1-2回に1章程度を予定)</p> <p>学期末にかけて、期末の課題に取り組みます。 (また、夏休みのプロジェクトを予定しています。)</p> <p>当科目用の講義支援システムは、 http://kasiwagi.dokkyo.ac.jp/proflist_eng.htm 上の担当教員の本科目用のリンクから利用できる。 授業の予習・復習に利用すること。ここにある連絡事項なども適時確認しておくこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>McMahon, R. <i>Presenting Different Opinions</i>. 南雲堂 『リーダーズ英和辞典』、<i>Collins COBUILD English Language Dictionary</i> など、各自辞書を用意・持参のこと。</p>		<p>出席状況(2/3以上)、授業態度、提出物等を総合的に評価する。「積極性」—やる気と努力を重視する。</p>	

02年度以前(秋)	英語(上級作文Ⅲ)	担当者	保坂 華子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期の続きで、さらに「自分のことばで表現する」力、「理解する」力をつけましょう。</p> <p>英語で「書く」、「自分のことばで論ずる」練習をしていきます。</p>		<p>1 復習など</p> <p>夏休みのプロジェクトの発表会(前半に実施)</p> <p>2以降 基本的に前期の続きから順に進みます。 (1-2回に1章程度を予定)</p> <p>学期末にかけて、期末の大きな課題に取り組みます。</p> <p>最終回 まとめなど</p> <p>当科目用の講義支援システムは、 http://kasiwagi.dokkyo.ac.jp/proflist_eng.htm 上の担当教員の本科目用のリンクから利用できる。 授業の予習・復習に利用すること。ここにある連絡事項なども適時確認しておくこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト他、各自辞書を用意・持参のこと。 例:『リーダーズ英和辞典』、<i>Collins COBUILD English Language Dictionary</i></p>		<p>出席状況(2/3以上)、授業態度、提出物等を総合的に評価する。「積極性」—やる気と努力を重視する。</p>	

02年度以前(通年)	英語(上級読解Ⅲ)	担当者	C. カーペンター
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The main goal of this class is to help students increase their confidence and fluency in reading and discussing current events and contemporary topics in English. We will read interesting texts on various topics. We will read fiction and non-fiction, stories, magazine articles, newspaper articles, and more. Some of the reading you will choose yourself. You will need to do some reading outside of class (i.e. there is homework in this class).</p> <p>Students should be prepared to actively participate in classroom discussions. The teacher will guide and support you in your reading and discussions with other students, but you, the students, will do most of the talking in this class.</p>		<p>Semester 1</p> <p>Week 1: Orientation and Level-Test</p> <p>Weeks 2 – 11: Various reading topics to be announced. Others to be self-selected by students.</p> <p>Week 12: Final Assessment</p> <p>※ A more complete and detailed schedule will be given in class. The schedule is always subject to changes and adjustments.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The text and recommended references will be announced in class.		Grades will be based on active participation, quizzes, homework, and tests. (※ <i>Attendance is required.</i> More than 3 days absent in one semester and you cannot pass this class.)	

02年度以前(通年)	英語(上級読解Ⅲ)	担当者	C. カーペンター
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Same as above.</p> <p>※ During the second semester, students will have greater responsibility for selecting reading materials and discussions will be based on your individualized reading.</p>		<p>Semester 2</p> <p>Week 13: Getting re-acquainted</p> <p>Weeks 14 – 23: Various reading topics to be announced. Others to be self-selected by students.</p> <p>Week 24: Final Assessment</p> <p>※ A more complete and detailed schedule will be given in class. The schedule is always subject to changes and adjustments.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The text and recommended references will be announced in class.		Grades will be based on active participation, quizzes, homework, and tests. (※ <i>Attendance is required.</i> More than 3 days absent in one semester and you cannot pass this class.)	

02年度以前(通年)	英語(上級会話Ⅲ)	担当者	G. コッホ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will use movie scripts for the basis to develop such skills as debate, discussion, presentation and public-speaking. The students will be required to download the script from a web page. After downloading the students must read the script before the beginning of class. At the beginning of each class, a short quiz will be given to evaluate the students preparedness for the class. During class, the students will be engaged in several activities and the last third of the class the scene for the day will be viewed.</p> <p>Web Page: http://members.jcom.home.ne.jp/2131775701</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction and Explanation 2. Weeks 2-12 will be explained in the first class 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No text Material will be downloaded from a web site.</p>		<p>Participation Weekly quizzes, and assignments</p>	

02年度以前(通年)	英語(上級会話Ⅲ)	担当者	G. コッホ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will use movie scripts for the basis to develop such skills as debate, discussion, presentation and public-speaking. The students will be required to download the script from a web page. After downloading the students must read the script before the beginning of class. At the beginning of each class, a short quiz will be given to evaluate the students preparedness for the class. During class, the students will be engaged in several activities and the last third of the class the scene for the day will be viewed.</p> <p>Web Page: http://members.jcom.home.ne.jp/2131775701</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction and Explanation 2. Weeks 2-12 will be explained in the first class 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No text Material will be downloaded from a web site.</p>		<p>Participation Weekly quizzes, and assignments</p>	

02年度以前 (通年)	英語 (基礎会話Ⅲ)	担当者	R. M. Payne
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to:</p> <ul style="list-style-type: none"> * help students improve their ability to communicate in spoken English; * introduce students to the culture of American English 		<p>We will cover one unit of the text during two class periods.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><u>Gear Up</u> (book 2)</p>		<p>Grades will be based on attendance and participation as well as regular evaluation.</p>	

02年度以前 (通年)	英語 (基礎会話Ⅲ)	担当者	R. M. Payne
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a continuation of the spring term course.</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

02年度以前（通年）	英語（基礎読解Ⅲ）	担当者	赤嶺 玲子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業では、アメリカ合衆国のエスニックマイノリティー（民族・文化的少数派）について書かれたテキストを読む。アメリカ社会、その国際関係について多角的な視点から学び、議論することによって、英語の読解力や表現力をつけるとともに、国際的な視野を広げることが、この授業の目的である。</p> <p>毎週の授業では生徒一人ひとりにテキストの英文を順番で訳してきてもらい、その週のトピックに関連する英語の新聞記事や雑誌記事、またはインタビューなどの音声教材を適宜使用しながら、自由にディスカッションを行う。グループ・ディスカッションやプレゼンテーションも、生徒の希望などを考慮しながら行う予定である。</p>		<p>春・秋学期で以下の項目を扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Japanese-Americans (1) / もう一人のイチローとは だれか Jewish-Americans / 移民族間結婚の恐怖 3. Chinese-Americans / チャンスをつかむ Irish-Americans / 新たな約束の地 4. Native-Americans / ネイティブアメリカンの知恵と「武器」 German-Americans / 不戦主義者としてのアメリカ人 5. Indian-Americans / モーテルのオーナーから情報産業の覇者まで Italian-Americans / 娯楽化するステレオタイプイメージ 6. Korean-Americans / マンハッタン商店主の苦悩 African-Americans / 人種差別と「逆差別」の論理 7. Japanese-Americans / 「戦争花嫁」という存在 Mexican Immigrants / アメリカ人になるための確かな条件 8. The Hmong / 彼らは時空を越えて移民した Cuban-Americans / カストロの死を待つ人々 他 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ethnic Minorities in the U.S.A. <民族から見たアメリカ社会> 著者：川村義治、Robert Muraskin 出版社：成美堂		訳の課題（30%） 出席、ディスカッションなど（30%） 学期末試験（記述式含む）（40%）	

02年度以前（通年）	英語（基礎読解Ⅲ）	担当者	赤嶺 玲子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		春学期に同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

02年度以前 (通年)	英語 (基礎作文Ⅲ)	担当者	柚木 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] 読み手にとって分かりやすくなるように、自分の考え・文章を効果的に表現する方法を学ぶというのがこの授業の目的です。最終的に、独創的かつインパクトのある自分独自のアイデアを効果的に人に与える力を身に付ける事を目標にしながら、「何かを考えるのが好き」な人に向いていると思います。</p> <p>[講義概要] 正確には、講義というよりも「演習」といえるかも知れません。文章を書く際の幾つかのルール (=パラグラフパターン) を学び、それに基づいて出来るだけたくさんの『作品』をどんどん仕上げていく事になります: 基本的に毎週何らかの『創作活動』がありますので、出席重視となります。 毎回の「作業」の都合上、英和辞書と和英辞書を必ず持参すること (電子辞書 OK です)。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. パラグラフとは? 3. 4. 作品 1 提出 5. 6. 作品 2 提出 7. 8. 作品 3 提出 9. 10. 作品 4 提出 11. 12. 作品 5 提出 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>[テキスト] 岩本一・吉田宏予著 Building the Essay from Well-written Paragraph 東京精文館 2003年</p>		出席点と数回の『作品』(≒レポート)の得点から判断します。(詳細は初回の授業時に。)	

02年度以前 (通年)	英語 (基礎作文Ⅲ)	担当者	柚木 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
上に同じ。		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. パラグラフとは? 3. 作品 6 提出 4. 5. 作品 7 提出 6. 7. 作品 8 提出 8. 9. 作品 9 提出 10. 11. 12. 作品 10 提出 	
テキスト、参考文献		評価方法	
上に同じ。		上に同じ。	

02年度以前(春)	英語(CAEL)	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネットアカデミーというウェブ教材は(1) 語彙(PowerWords)、(2) リーディング、(3) リスニング、(4)ライティングの4つからなる。昨年度、1年の全カリでは(2)、英語学科では(1)を自律学習した。この授業では主に(1)-(3)を使う。レベル分けテストの結果に基づいて3レベルに分け、それぞれのレベルに応じて週3時間以上の学習内容を課す。一斉授業は行わず、学内のPCを利用して各自の都合の良い時間に学習してもらう。但し、毎週水曜日の昼休み12:30-13:00に指定の教室に集まり、レベル毎の小テスト(PowerWords、リスニング)を受験してもらう。水曜日の予定は右の通り。リーディングはUnits 51-80を定期試験の出題範囲に含める。英語学科2年は前年度より上のレベルのPowerWordsを学習する。受講対象は全学部の2-4年生。TOEIC600点以上、450点以上、350点以上の3レベルを設定する予定である。春学期完結、重複履修不可。詳しくは myasui@dokkyo.ac.jp に問い合わせること。学期中の学習相談は月曜日4限、水曜日2限に中央棟606にて対応する。</p>		<p>1 レベル診断テスト受験、ネットアカデミーの説明 2 ネットアカデミーの説明補足 3 第1回小テスト 4 第2回小テスト 5 第3回小テスト 6 第4回小テスト 7 第5回小テスト 8 第6回小テスト 9 第7回小テスト 10 第8回小テスト 11 第9回小テスト 12 第10回小テスト</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		指定教材の学習終了が単位取得の必須要件である。A-Cの評価は10回の小テスト(50%)と定期試験(50%)による。上位のレベルほどAの割合を多くする。	

02年度以前(秋)	英語(CAEL)	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ネットアカデミーというウェブ教材は(1) 語彙(PowerWords)、(2) リーディング、(3) リスニング、(4)ライティングの4つからなる。昨年度、1年の全カリでは(2)、英語学科では(1)を自律学習した。この授業では主に(1)-(3)を使う。レベル分けテストの結果に基づいて3レベルに分け、それぞれのレベルに応じて週3時間以上の学習内容を課す。一斉授業は行わず、学内のPCを利用して各自の都合の良い時間に学習してもらう。但し、毎週水曜日の昼休み12:30-13:00に指定の教室に集まり、レベル毎の小テスト(PowerWords、リスニング)を受験してもらう。水曜日の予定は右の通り。リーディングはUnits 51-80を定期試験の出題範囲に含める。英語学科2年は前年度より上のレベルのPowerWordsを学習する。受講対象は全学部の2-4年生。TOEIC600点以上、450点以上、350点以上の3レベルを設定する予定である。秋学期完結、重複履修不可。詳しくは myasui@dokkyo.ac.jp に問い合わせること。学期中の学習相談は月曜日4限、水曜日2限に中央棟606にて対応する。</p>		<p>1 レベル診断テスト受験、ネットアカデミーの説明 2 ネットアカデミーの説明補足 3 第1回小テスト 4 第2回小テスト 5 第3回小テスト 6 第4回小テスト 7 第5回小テスト 8 第6回小テスト 9 第7回小テスト 10 第8回小テスト 11 第9回小テスト 12 第10回小テスト</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		指定教材の学習終了が単位取得の必須要件である。A-Cの評価は10回の小テスト(50%)と定期試験(50%)による。上位のレベルほどAの割合を多くする。	

2005年度

外国語学部共通科目シラバス

(2003年度以降入学生用)

外国語学部共通科目 (2003年度以降入学生用)

目 次

※受講定員のある科目は、登録が定員を超えた場合に抽選を行う。授業時間割表を参照する。

時間割 コード	開講期	受講 定員	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始 学期	履修 不可	ページ
07690	春		総合講座	加藤 億重	水3	5-128	2	1	経・法	1
07691	秋		総合講座	加藤 億重	水3	5-128	2	2	経・法	1
00220	春		情報科学概論a	呉 浩東	金1	1-206	2	1	経・法	2
00221	秋		情報科学概論b	呉 浩東	金1	1-206	2	2	経・法	2
			情報科学各論(入門)	各担当教員			2	1	経・法	3
00138	春	60		長崎 等	月3	5-201				
00042	春	60		東 孝博	月3	5-207				
00058	春	60		金子 憲一	月4	5-207				
00068	春	60		金子 憲一	月5	5-207				
00074	春	60		田中 雅英	火1	5-207				
00093	春	60		田中 雅英	火2	5-207				
00208	春	60		内田 俊郎	木4	5-207				
00253	春	60		松山 恵美子	金2	5-207				
			情報科学各論(初級—表計算入門)	各担当教員			2	2	経・法	4
00141	秋	60		長崎 等	月2	5-207				
00044	春	50		金子 憲一	月3	5-101				
00070	秋	60		金子 憲一	月5	5-207				
00076	秋	60		田中 雅英	火1	5-207				
00109	春	60		田中 雅英	火3	5-100				
09040	春	60		二宮 哲	水1	5-201				
00019	秋	50		呉 浩東	水2	5-208				
00184	春	60		内田 俊郎	木2	5-207				
00193	秋	60		内田 俊郎	木2	5-201				
09037	秋	60		内田 俊郎	木3	5-207				
00231	秋	60		松山 恵美子	金2	5-207				
00255	春	60		松山 恵美子	金3	5-201				
00201	春	60	情報科学各論(初級—プレゼンテーション)	金井 満	火2	5-100	2	1	経・法	5
00202	秋	60	情報科学各論(初級—プレゼンテーション)	金井 満	火2	5-100	2	2	経・法	5
			情報科学各論(初級—HTML入門)	各担当教員			2	2	経・法	6
00046	秋	60		東 孝博	月3	5-207				
00060	秋	60		金子 憲一	月4	5-207				
00096	秋	60		田中 雅英	火2	5-207				
00131	秋	60		二宮 哲	水1	5-201				
00021	春	50		呉 浩東	水2	5-208				
00195	春	60		内田 俊郎	木3	5-207				
00210	秋	60		内田 俊郎	木4	5-207				
00239	秋	30	情報科学各論(中級—表計算応用1)	松山 恵美子	金3	5-203	2	2	経・法	7
00232	春	30	情報科学各論(中級—表計算応用1)	松山 恵美子	金4	5-207	2	1	経・法	7
09308	秋	30	情報科学各論(中級—表計算応用2)	松山 恵美子	金4	5-203	2	2	経・法	8
00017	春	30	情報科学各論(中級—HTML応用1)	東 孝博	月2	5-203	2	1		9
00048	秋	30	情報科学各論(中級—HTML応用1)	金子 憲一	月3	5-101	2	2		10
00111	秋	30	情報科学各論(中級—HTML応用1)	田中 雅英	火3	5-100	2	2		11
00025	秋	30	情報科学各論(中級—HTML応用2)	東 孝博	月2	5-203	2	2		9
00156	春	30	情報科学各論(中級—データベース1)	長崎 等	月2	5-207	2	1		12
00158	秋	30	情報科学各論(中級—データベース2)	長崎 等	月3	5-209	2	2		12
00172	春	30	情報科学各論(中級—プログラミング論1)	呉 浩東	月2	5-210	2	3	言	13
00191	秋	30	情報科学各論(中級—プログラミング論2)	呉 浩東	月2	5-210	2	4	言	13
00087	春		経済原論a	野村 容康	火1	2-404	2	1	経・法	14
00088	秋		経済原論b	野村 容康	火1	2-404	2	2	経・法	14
00055	春		社会心理学a	田口 雅徳	火4	3-202	2	1		15
00056	秋		社会心理学b	田口 雅徳	火4	3-202	2	2		15

03年度以降（春）	総合講座	担当者	加藤 僊重
講義目的、講義概要 ～日本は諸外国から何を学び、何を伝えたか～ 講義目的および概要 日本人は海外への好奇心は高く、海外から多くの諸知識を昔から得てきた。 本講義は毎回の講演者が、右に示したように各自の専攻分野において、日本が外国の学問をどのように導入したかを講義する。		授業計画 1 4月13日 はじめに 加藤 僊重 2 4月20日 中国古典 浅山 佳郎 3 4月27日 「社会」 有吉 広介 4 5月11日 ダンス 青柳 多恵子 5 5月18日 会計学 湯田 雅夫 6 5月25日 社会主義 1 辻 康吾 7 6月1日 社会主義 2 辻 康吾 8 6月8日 古代日本の国際交流 飯島 一彦 9 6月15日 教育制度 川村 肇 10 6月22日 基督教 高橋 正男 11 6月29日 未定 12 7月6日 まとめ 加藤 僊重	
テキスト、参考文献		評価方法 テスト、レポートで評価する。 最初の講義で説明する。	

03年度以降（秋）	総合講座	担当者	加藤 僊重
講義目的、講義概要 ～一冊の本・一つの資料に出会う～ 講義目的および概要 本講義では毎回の講演者が、各自の専攻分野において、何に惹かれ、何を勉強・研究しているかを講義する。この講義が学生諸君の将来の指針となることを願う。		授業計画 1 9月28日 はじめに 加藤 僊重 2 10月5日 明治の国際交流 飯島 一彦 3 10月12日 スポーツ 梶野 克之 4 10月19日 未定 5 10月26日 フリースラント語 児島 仁士 6 11月2日 伊藤仁斎 浅山 佳郎 7 11月9日 教育史 川村 肇 8 11月16日 文化人類学 井上 兼行 9 11月30日 化学と生活 塚目 孝裕 10 12月7日 シーボルト蒐集品 和田 浩志 11 12月14日 スペイン語 二宮 哲 12 12月21日 まとめ 加藤 僊重	
テキスト、参考文献		評価方法 テスト、レポートで評価する。 最初の講義で説明する。	

03年度以降(春)	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっている。単にコンピュータの操作技術を習熟するということではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができる。これは、情報が多大で多様な価値をもつ情報社会に生きる個人としてもっとも重要な能力である。</p> <p>本講義では、(1) 情報に関する基本的な概念、(2) コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、(3) 情報システムに関する基礎的な素養、(4) 情報社会に関する基礎的な理解などを修得の目標とする。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係を概説し、コンピュータのハードウェアとソフトウェア、コンピュータの動作概要などを解説する。次に、情報の符号化、コンピュータ内のデータ表現、プログラム構造、アルゴリズムについて学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要と目標 2 情報とは何か 情報の性質、情報の形態、情報の発達 3 コンピュータの歴史と特徴 計算機械の変遷とコンピュータの世代論 4 数の体系と基数変換 2進数と16進数、基数変換、2進数の演算 5 コンピュータの論理回路とデータ表現 6 コンピュータの構成要素(1) 中央処理装置(CPU)とメインメモリ 7 コンピュータの構成要素(2) 2次記憶装置と周辺措置 8 コンピュータ・ソフトウェアの概略 ソフトウェアの役割、体系と種類 9 オペレーティングシステム(OS) OSの基礎概念、OSの役割と原理 10 コンピュータ言語 コンピュータ言語の分類と目的 11 基本データ構造 配列構造、木構造、リスト構造、スタック構造 12 アルゴリズム 	
テキスト、参考文献		評価方法	
山田啓一 『情報科学』 西日本法規出版		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。	

03年度以降(秋)	情報科学概論 b	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっている。単にコンピュータの操作技術を習熟するということではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができる。これは、情報が多大で多様な価値をもつ情報社会に生きる個人としてもっとも重要な能力である。</p> <p>本講義では、(1) 情報に関する基本的な概念、(2) コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、(3) 情報システムに関する基礎的な素養、(4) 情報社会に関する基礎的な理解などを修得の目標とする。</p> <p>本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説し、数回の演習も実施する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ファイルの構造 ファイルの種類と構造 2 データベース データベースの概要、データベースの種類 3 データベース管理システム(DBMS) DBMSの目的と構成 4 データベースの設計 データベース構築の手順、データの正規化 5 コンピュータ・ネットワーク ネットワークの種類、LANの構成とアクセス方式 6 インターネット インターネットの仕組み、通信規約TCP/IP、DNS 7 インターネットサービス World Wide Web、情報検索、電子メールなど 8 インターネットと社会 セキュリティ、暗号システム、電子認証 9 マルチメディアの利用 画像処理、音声処理、応用システム 10 情報検索 情報検索の方法と演習 11 言語処理における情報技術(演習) 12 ソフトウェア開発手順 システム分析と設計、プログラム開発と保守 	
テキスト、参考文献		評価方法	
山田啓一 『情報科学』 西日本法規出版 随時必要な資料を指示する。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。	

03年度以降(春)	情報科学各論(入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク(通信)、情報倫理についてである。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作 2 ウィンドウズ入門—ウィンドウ操作とアプリケーション 3 日本語入力とタイピング 4 インターネット—ブラウザ・メール・検索 5 情報倫理 6 ワードプロセッサとは 7 文書の作成(1) 8 文書の作成(2) 9 文書の作成(3) 10 文書への画像の挿入 11 レポートの作成 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅰ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降(秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 (春)	情報科学各論(初級-表計算入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成 3 表の編集、グラフの装飾、印刷 4 計算式の利用 5 ネットワークからのデータの収集・整理 6 関数の利用 (1) 7 関数の利用 (2) 8 関数の利用 (3) 9 プレゼンテーション (1) —作成 (MS-Powerpoint とは) 10 プレゼンテーション (2) —作成 (データの活用・まとめ) 11 プレゼンテーション (3) —発表 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降 (秋)	情報科学各論(初級-表計算入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意 実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成 3 表の編集、グラフの装飾、印刷 4 計算式の利用 5 ネットワークからのデータの収集・整理 6 関数の利用 (1) 7 関数の利用 (2) 8 関数の利用 (3) 9 プレゼンテーション (1) —作成 (MS-Powerpoint とは) 10 プレゼンテーション (2) —作成 (データの活用・まとめ) 11 プレゼンテーション (3) —発表 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降(春)	情報科学各論(初級-プレゼンテーション)	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアであるPowerpointを使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpointの基本操作1 3. Powerpointの基本操作2 4. Powerpointの基本操作3 5. Powerpointの基本操作4 6. Powerpointの基本操作5 7. プレゼンテーションの注意点と個人プレゼンテーションの準備 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

03年度以降(秋)	情報科学各論(初級-プレゼンテーション)	担当者	金井 満
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアであるPowerpointを使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpointの基本操作1 3. Powerpointの基本操作2 4. Powerpointの基本操作3 5. Powerpointの基本操作4 6. Powerpointの基本操作5 7. プレゼンテーションの注意点と個人プレゼンテーションの準備 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

03年度以降(春)	情報科学各論(初級-HTML入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一步踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では先ず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つであるWWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWWとLAN 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストとHTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造とHTML 7 ホームページの作成-テキスト 8 ホームページの作成-イメージ 9 ホームページの作成-リンク 10 ホームページの作成-テーブル・その他 11 ホームページの作成-完成 12 ファイルの転送とページの更新 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降(秋)	情報科学各論(初級-HTML入門)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一步踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では先ず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つであるWWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWWとLAN 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストとHTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造とHTML 7 ホームページの作成-テキスト 8 ホームページの作成-イメージ 9 ホームページの作成-リンク 10 ホームページの作成-テーブル・その他 11 ホームページの作成-完成 12 ファイルの転送とページの更新 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03 年度以降 (春)	情報科学各論 (中級—表計算応用 1)	担当者	松山恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は表計算ソフト (MS-Excel) の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excel の機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excel でデータを処理する過程において、計算式、関数、書式設定、コピーなど、同じ一連の操作を何度か繰り返す必要がでてくる場合がある。</p> <p>「マクロ」とは、そのような同じ操作を記録して登録することである。そのことにより、次回からは登録した「マクロ」を呼び出すことで、即時に実行することが可能となる。</p> <p>簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で自動的に作成される VBA (Visual Basic for Application) プログラムの基礎を理解することを目標とする。</p> <p>初回の授業に、必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスと Excel の復習 2 マクロ機能とは 3 関数と計算式を使ったマクロの作成 (1) 4 関数と計算式を使ったマクロの作成 (2) 5 マクロ用ボタンとマクロの連携 6 第 1 回目課題作成 7 VBA の利用—簡単なゲームの作成 (1) 8 VBA の利用—簡単なゲームの作成 (2) 9 第 2 回目課題作成 10 最終課題作成 (1) 11 最終課題作成 (2) 12 最終課題作成 (3) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
第 1 回目の授業で指示する。		平常点 50% (出席および課題提出)、定期試験 50% で総合評価をおこなう。	

03 年度以降 (秋)	情報科学各論 (中級—表計算応用 1)	担当者	松山恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は表計算ソフト (MS-Excel) の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excel の機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excel でデータを処理する過程において、計算式、関数、書式設定、コピーなど、同じ一連の操作を何度か繰り返す必要がでてくる場合がある。</p> <p>「マクロ」とは、そのような同じ操作を記録して登録することである。そのことにより、次回からは登録した「マクロ」を呼び出すことで、即時に実行することが可能となる。</p> <p>簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で自動的に作成される VBA (Visual Basic for Application) プログラムの基礎を理解することを目標とする。</p> <p>初回の授業に、必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスと Excel の復習 2 マクロ機能とは 3 関数と計算式を使ったマクロの作成 (1) 4 関数と計算式を使ったマクロの作成 (2) 5 マクロ用ボタンとマクロの連携 6 第 1 回目課題作成 7 VBA の利用 (1) 8 VBA の利用 (2) 9 第 2 回目課題作成 10 最終課題作成 (1) 11 最終課題作成 (2) 12 最終課題作成 (3) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
第 1 回目の授業で指示する。		平常点 50% (出席および課題提出)、定期試験 50% で総合評価をおこなう。	

03年度以降（秋）		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降（秋）	情報科学各論（中級—表計算応用2）	担当者	松山恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は情報科学各論（中級—表計算応用1）の単位を取得した学生を対象として行うものとする。</p> <p>情報科学各論（中級—表計算応用1）では、Excelの基本的なマクロ機能を学習しながらVBA（Visual Basic for Application）の基本についても触れた。</p> <p>本講義では、VBAをもう一步踏み込んで理解することを目的とする。</p> <p>最終的には、情報科学各論（中級—表計算応用1）で作成したマクロをプログラミングすることで、汎用性のあるものへと完成させていく。</p> <p>初回の授業に、必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスと Excel マクロ機能の復習 2 VBA とは (1) 3 プログラミングの技法 (1) 4 プログラミングの技法 (2) 5 マクロ用ボタンとの連携 6 第1回目課題作成 7 プログラミングの技法 (3) 8 プログラミングの技法 (4) 9 第2回目課題作成 10 最終課題作成 (1) 11 最終課題作成 (2) 12 最終課題作成 (3) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の授業で指示する。		平常点 50%（出席および課題提出）、定期試験 50%で総合評価をおこなう。	

03年度以降(春)	情報科学各論(中級-HTML応用1)	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語と言われている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ること为目标とする。</p> <p>最初に、簡単なCGIの利用とJavaスクリプトの埋め込みを通して、HTMLによるWebページ作りの復習をする。次に、Javaアプレットの概要を説明する。そして、プログラムを構成する要素である変数、配列、文などと、イメージの表示やグラフィックスの描画の方法を、プログラミングの経験がないことを前提に説明する。</p> <p>注意 情報科学各論(初級)「HTML入門」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業内容説明 2 HTMLの復習(簡単なCGIの利用) 3 HTMLの復習(Javaスクリプトの埋め込み) 4 Javaアプレットの概要 5 プログラム練習(グラフィックスイメージの表示) 6 プログラム練習(定数と変数) 7 プログラム練習(for文1) 8 プログラム練習(for文2) 9 プログラム練習(if文) 10 プログラム練習(配列) 11 プログラム練習(Mathオブジェクト) 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。		日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。	

03年度以降(秋)	情報科学各論(中級-HTML応用2)	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語と言われている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ること为目标とする。</p> <p>最初に、Javaの基本構造を説明する。続いて、マウスやキーに対するイベント処理、ボタン等のGUI部品の使用、スレッド機能を利用したリアルタイム処理を通してJavaアプレットへの理解を深める。</p> <p>注意 情報科学各論(中級)「HTML応用1」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Javaの基本構造 2 イベント処理(マウスイベント1) 3 イベント処理(マウスイベント2) 4 イベント処理(キーイベント1) 5 イベント処理(キーイベント2) 6 GUI部品の使用(ボタン・チェックボックス) 7 GUI部品の使用(選択ボックス・スクロールバー) 8 GUI部品の使用(GUI部品のレイアウト) 9 スレッドの利用(イメージの移動) 10 スレッドの利用(色の変化・時計) 11 スレッドの利用(スレッドを利用したゲーム) 12 総合演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。		日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。	

03年度以降（春）		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降（秋）	情報科学各論（中級－HTML応用1）	担当者	金子憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的</p> <p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTMLを用いたホームページ作成技術を習得した人（FTPの理解を含む）を対象」に、一方方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>講義の概要</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及びHTML、FTPなどの復習を行う。次にJavaScriptやCGIプログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとイントロダクション 2 HTMLとFTPの復習（1） 3 HTMLとFTPの復習（2） 4 インタラクティブなページ（HTMLとCGI） 5 JavaScript（1） 6 JavaScript（2） 7 JavaScript（3） 8 JavaScript（4） 9 CGIの利用（1） 10 CGIの利用（2） 11 CGIの利用（3） 12 総合報告会 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する。プリントの配布も行う。		授業中に作成する課題と平常点（宿題含む）で総合評価する。出席は重視する。最低限のルール（禁飲食等）を守れない場合は、即時失格とする。	

03年度以降（春）		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降（秋）	情報科学各論（中級－HTML応用1）	担当者	田中 雅英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は情報科学各論(初級)「HTML入門」に続く中級コースである。HTML入門を受講済みあるいは同等の知識を有する学生を対象に、単にHTML言語の更なる発展を目指すのではなく、CGIやJava Scriptにまで範囲を広げる。もちろん単にホームページ作成ということを目指とするのではなく、その過程においてコンピュータやネットワークの理解を含め、その積極的な利用方法の理解にまで話を進める。基本的には、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブな双方向のコミュニケーションを図ることにより、情報処理としての広範囲な知識の整理を図りたい。</p> <p>なお、この授業計画はあくまで一つの目安であり、途中での変更も十分にありえる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと復習 2. Web ページのネットへのアップロード等 3. プログラミングの考え方 4. Java Script1 5. Java Script2 6. Java Script3 7. Java Script4 8. CGI 9. 情報の収集 1 10. 情報の収集 2 11. 応用 12. その他 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に適宜指示する。		授業中に指示する課題と平常点で評価する。	

03年度以降(春)	情報科学各論(中級-データベース1)	担当者	長崎 等
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は表計算ソフトウェア(Excel)の基礎をマスターした学生を対象として、Excelを利用してデータベースの基礎概念及び利用方法について学習する。</p> <p>高度情報化社会といわれる現代においては、昔と違い膨大な量の情報がうずまいている。そういった情報の中からいかに的確な情報を取り出すかというのが大きな課題である。その方法論的な答えの1つとしてデータベースがある。</p> <p>データベースの基本的な考え方や利用の仕方について、比較的なじみのある表計算ソフトウェアを利用して実習を行い、学習するのが本講義の目的である。</p> <p><受講者への要望> 情報科学各論(初級一表計算入門)を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第1回目の授業には必ず出席すること。遅刻は厳禁とします。また実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータ利用の復習 2 データベースについての調査 3 データベースの基本概念 4 並べ替え 5 集計 6 レコードの抽出 7 条件検索 1 8 条件検索 2 9 データベース関数 10 クロス集計とピボットテーブル 11 まとめ 12 実習試験 	
テキスト、参考文献		評価方法	
1 回目の授業で指示します。		出席及びレポート課題、さらに実習試験によって評価します。	

03年度以降(秋)	情報科学各論(中級-データベース2)	担当者	長崎 等
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「データベース1」を履修済みの学生を対象として、Accessを利用してデータベースの概念や設計方法について学習する。</p> <p>Accessの基本的な使い方やデータベースの概念を学習した後に、グループごとに与えられた要求をもとにデータベースの設計及び作成をおこなってもらう。グループ単位での演習を通じて、データベースの概念や設計に対する理解を深める。</p> <p><受講者への要望> 情報科学各論(中級)「データベース1」を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第1回目の授業には必ず出席すること。遅刻は厳禁とします。またコンピュータの実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 データベースの概念と機能 2 Accessの基本操作 3 テーブル 4 テーブルと結合 5 クエリー(1) 6 クエリー(2) 7 グループによるテーブル設計1(ハイレベルエンティティ分析) 8 グループによるテーブル設計2(関係データ分析) 9 グループによるテーブル設計3(テーブル作成) 10 グループによるクエリ設計1(外部スキーマの設計) 11 グループによるクエリ設計1(クエリの作成) 12 グループによるプレゼンテーション 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『30Hで理解できるアクセス2000』, 実教出版 『図解雑学データベース』, ナツメ出版		出席及びレポート課題によって評価します。	

03年度以降(春)	情報科学各論(中級-プログラミング論 1)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼ぶ。本講義では、プログラムの経験のない初心者から、プログラミングの基礎、すなわちプログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにする。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指す。</p> <p>初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual Basic.NET を用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習する。いくつかのプログラムの設計について講義および実習を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説 2 プログラミング言語の発展史 3 開発ツールとしての Visual Basic.NET の基本 Visual Basic の画面構成、プログラム開発の流れ 4 Visual Basic の基本操作 フォーム、コントロール、プロパティ設定 5 簡単なプログラムの作成 基本的なプログラミングの手順、プログラムの動作の確認する 6 イベント駆動型プログラム 7 文字の表示と計算プログラム 変数定義、演算、関数、メソッドの使い方 8 選択構造をもつプログラム (1) 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング 9 選択構造をもつプログラム (2) 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計 10 繰り返しあるプログラムの作成 (1) 回数指定による繰り返し、For~Next 文 11 繰り返しあるプログラムの作成 (2) 条件指定による繰り返し 12 総合練習 総合問題、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 最初の講義で指示する。 (2) 随時必要な資料を指示する。 		定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。	

03年度以降(秋)	情報科学各論(中級-プログラミング論 2)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は、上記「プログラミング論 1」既習または基礎的なプログラムの作成知識を理解していることが前提にし、より発展的なプログラミングの知識を学べ、実際に各種のプログラムの作成練習を繰り返し替えプログラミングの技能を身に付くことを目的とする。</p> <p>ここでは、Visual Basic.NET というプログラミング言語を使って、Windows 環境でさまざまな機能を生かすためにプログラムの作成の考え方をはじめ、文系の方に役立つ文字列の処理、図形・画像の処理、ファイル操作などに学ぶ。さらに、問題解決のアルゴリズムについて紹介し、実用なプログラムの設計法まで述べる。プログラミングを学ぶにあたって実践が非常に重要であるので、実習の比重が大きく設定されている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 プログラムの構造化 Sub プロシージャ、Function プロシージャ 2 配列とコントロール配列 配列変数の宣言、配列の使い方 3 文字列の処理プログラム (1) 簡単な翻訳プログラムの作成 4 文字列の処理プログラム (2) 文字列の照合と置き換え 5 図形の描画 さまざまな図形を描画するプログラムの作成 6 文字列の表示 7 画像の描画 画像の呼び出し方、画像の移動とコピー 8 ファイル操作 (1) シーケンシャルアクセス：データの読み書き 9 ファイル操作 (2) ランダムファイルとランダムアクセス 10 応用的なテクニック アルゴリズム：探索とソート 11 再帰というプログラミング手法 12 総合練習 総合問題、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時必要な資料を指示する。		定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。	

03年度以降（春）	経済原論 a	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動① 3. 家計の行動② 4. 家計の行動③ 5. 企業の行動① 6. 企業の行動② 7. 企業の行動③ 8. 不完全競争の理論 9. 市場の理論① 10. 市場の理論② 11. 厚生経済学の基本定理 12. 市場の失敗 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として試験の成績で評価する。出席を考慮する場合もある。	

03年度以降（秋）	経済原論 b	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. IS-LM 分析 9. 物価とインフレーション 10. 失業の問題 11. 経済成長論 12. 開放マクロ経済 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として試験の成績で評価する。出席を考慮する場合もある。	

03年度以降（春）	社会心理学 a	担当者	田口雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>社会心理学とは、社会と個人の関わりという観点から、社会における個人の認知や行動を研究する学問である。個人の行動や認知過程は少なからず、個人をとりまく他者、環境、文化などに影響される。本講義では、こうした点を近年の研究動向を踏まえて、身近な話題を取り入れながら論じていきたい。年間を通じての授業概要は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 他者認知 2. 自己認知 3. 集団の影響力と社会的行動 4. 自己呈示と自己開示 5. 対人コミュニケーションの心理 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 社会心理学とは？ 3. 他者認知：印象形成 4. 他者認知：印象の記憶 5. 他者認知：性格に認知 6. 他者認知：対人魅力 7. 自己認知：自己意識 8. 自己認知：自覚理論と没個性化 9. 自己認知：自己知識 10. 自己認知：自己評価 11. 集団と個人の行動① 12. 集団と個人の行動② 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはとくに指定しない。資料を配付して授業を進めていく。参考文献は授業の中で紹介する。</p>		<p>出席状況と授業での小レポート、最終試験により総合的に評価する。</p>	

03年度以降（秋）	社会心理学 b	担当者	田口雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的と概要は春学期を参照のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 春学期のまとめと秋学期のガイダンス 2. 自己呈示① 3. 自己呈示② 4. 自己開示 5. コミュニケーションの心理①：説得① 6. コミュニケーションの心理②：説得② 7. コミュニケーションの心理③：言語 8. コミュニケーションの心理④：非言語① 9. コミュニケーションの心理⑤：非言語② 10. コミュニケーションの心理⑥：非言語③ 11. コミュニケーションの心理⑦：CMC 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはとくに指定しない。資料を配付して授業を進めていく。参考文献は授業の中で紹介する。</p>		<p>出席状況と授業での小レポート、最終試験により総合的に評価する。</p>	